

福 岡 市
子どもの生活状況等に関する調査
報 告 書

令和4年3月

福 岡 市

目 次

I	調査の概要	1
II	調査結果	3
	第1章 基本属性	3
	1. 同居家族（Q3）（Q4）	3
	2. 両親の配偶関係（Q5）	4
	3. 両親の就業状況（Q30）（Q31）	5
	4. 世帯収入（Q29）	7
	第2章 子どもの生活習慣	8
	5. 平日の就寝時刻（Q15）	8
	6. 平日の朝食摂取状況（Q9）	10
	7. 平日の夕食を主に一緒に食べる人（Q14）	13
	第3章 子どもの学習、放課後の過ごし方など	15
	8. 自宅での学習状況（Q11）	15
	9. 学校などでの勉強の成績（Q16）	16
	10. 授業以外での運動の実施状況（Q10）	18
	11. 習い事の実施状況（Q13）	19
	12. 放課後の留守番状況（Q12）	21
	13. 不登校の経験（Q17）	22
	14. 進学について（Q18）（Q19）	23
	15. 子どもの居場所について（Q20）（Q21）	25
	第4章 家庭の状況	31
	16. 家庭で子どもと行うこと（Q22）	31
	17. 学校行事への参加（Q23）	33
	18. 経済的理由のために世帯にないもの（Q7）	35
	19. 経済的理由のために支払いができなかったもの（Q8）	37
	第5章 子どもや家庭に関する相談など	39
	20. アンケート回答者（Q6）	39
	21. 子どもや家庭に関する相談相手（Q24）（Q25）（Q26）	40
	22. 子育ての楽しさ（Q27）	46
	23. 子育てに関して悩んでいること（Q28）	47

第6章 新型コロナウイルス感染症の影響	49
24. 保護者の状況（Q32）	49
25. 子どもの状況（Q33）	55
 Ⅲ 講評	 65
 Ⅳ 参考資料（調査項目）	 69

I 調査の概要

I 調査の概要

1. 調査の目的

近年、子どもを取り巻く環境が大きく変化し、また、新型コロナウイルス感染症の影響が続いている中、福岡市の子どもや子育て家庭の生活状況を幅広く多岐にわたって把握し、今後、市としての効果的な施策を推進していくための基礎資料を得ることを目的として実施した。

2. 調査時期

令和3年10月～11月

3. 調査対象

対象者	対象児童生徒数 (令和3年5月 時点)	有効回収票数 (回収率)
①福岡市立小学校に在籍する全小学6年生の保護者	13,914	5,652 (40.6%)
②福岡市立中学校に在籍する全中学3年生の保護者	12,405	4,333 (34.9%)
合 計	26,319	9,985 (37.9%)

※特別支援学校（小学部第6学年、中学部第3学年）含む

4. 調査方法

調査は、福岡市立小学校に在籍する全小学6年生の保護者、および福岡市立中学校に在籍する全中学3年生の保護者を対象に、市が各学校を通じて、調査依頼及び回答フォームのURLの案内を行い、オンラインにて実施した。

5. 調査主体

福岡市こども未来局こども部こども健全育成課

6. 分析の方法

各設問項目において、「世帯収入」、「世帯類型」による分析を実施した。

- (1) 世帯収入については、生活保護制度における保護基準額などを参考に、「300万円未満」「300万～600万円未満」「600万円以上」の3分類とした。
- (2) 世帯類型については、「ひとり親等」「ふたり親」の2分類とし、両親の配偶関係から分類した。
 - ・「ひとり親等」とは両親の配偶関係が「既婚・事実婚」以外の家庭とした。
 - ・「ふたり親」とは両親の配偶関係が「既婚・事実婚」の家庭とした。

7. 調査結果の見方

- (1) 数表、図表に示すNは、標本全数である。
- (2) 数表、図表に示すnは、比率算出上の基数（標本数）である。数表で、分析項目によっては対象者が限定されるため、全体の回答者数とは一致しない。
- (3) 文中の数字は、百分比の小数点以下第2位を四捨五入しているので、回答比率の合計は必ずしも100%とはならない。
- (4) 2つ以上の回答を要する（複数回答）質問の場合、その回答比率の合計は原則として100%を超える。
- (5) 小数点以下第2位を四捨五入している関係上、図表中に「0.0」と表記されている場合がある。これについては標本数は発生しているが、小数点第1位の表記では表せない数値であることを示す。数表中の「－」は、該当する選択肢の回答がないことを示す。
- (6) 文中の選択肢の表記は「 」で行い、選択肢のうち2つ以上のものを合計して表す場合は『 』とした。
- (7) 今回の調査は、次の調査結果と比較分析を行っている。
 - ア 福岡市「子どもの生活状況等に関する調査」平成28年7月実施
 - イ 内閣府「子供の生活状況調査」令和3年2月～3月実施なお、本報告書において、アは「前回調査」、イは「全国調査」という。

Ⅱ 調査結果

Ⅱ 調査結果

第 1 章 基本属性

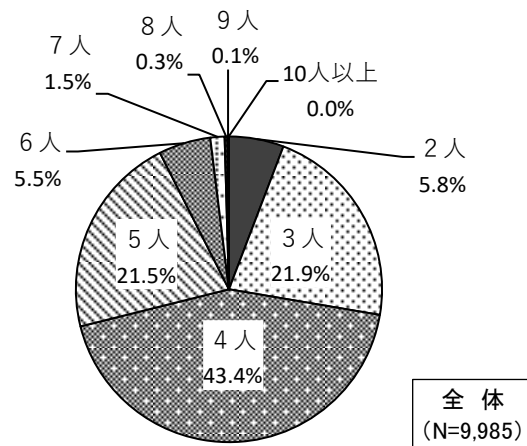
1. 同居家族

(1) 同居家族人数

お子さんと同居し、生計を同一にしているご家族の人数（お子さんを含む。）を教えてください。ただし、単身赴任中の方は含めないでください。（Q3）

子どもと生計を同一にしている家族の人数（本人含む）は「4人」が43.4%で最も多く、以下、「3人」（21.9%）、「5人」（21.5%）が約2割で続いている。

図表 1－1 同居家族人数 [全体]

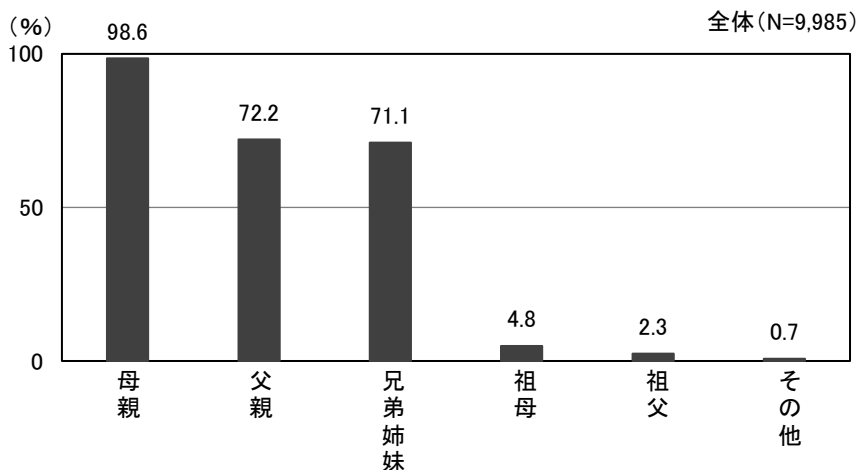


(2) 同居家族

Q3. で回答した「ご家族」には、お子さんから見てどの関係の方が含まれますか。(あてはまるものすべてにチェック) (Q4)

同居家族は「母親」が98.6%と最も多く、次いで「父親」が72.2%、「兄弟姉妹」が71.1%である。「祖母」(4.8%)、「祖父」(2.3%)はわずかである。

図表 1-2 同居家族 [全体]

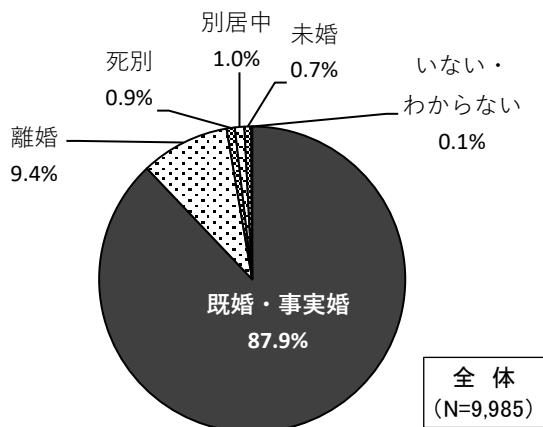


2. 両親の配偶関係

お子さんのご両親のことについて教えてください。(Q5)

子どもの両親の配偶関係は「既婚・事実婚」が87.9%と最も多く、9割近くとなっている。「離婚」は9.4%、「死別」は0.9%、「別居中」は1.0%、「未婚」は0.7%である。

図表 1-3 両親の配偶関係 [全体]



3. 両親の就業状況

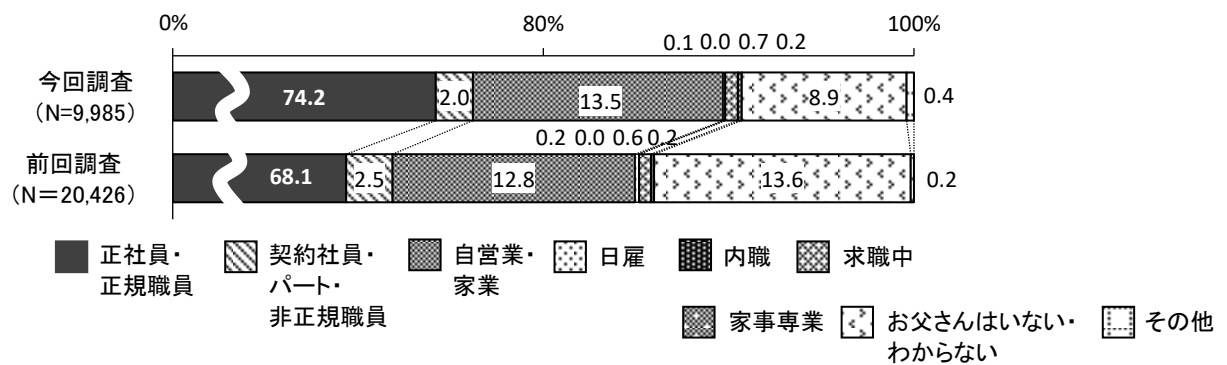
(1) 父親の就業状況

お子さんのお父さんの現在の就業状況について教えてください。(Q30)

父親の就業状況は「正社員・正規職員」が 74.2%と最も多く、次いで「自営業・家業」が 13.5%となっている。

前回調査と比べると、今回調査の方が「正社員・正規職員」は 6.1 ポイント多い。その他の職業では、あまり大きな差はみられない。

図表 1－4 父親の就業状況〔全体〕（前回調査比較）



世帯収入別でみると、300 万円未満では「自営業・家業」(19.5%) が他の世帯収入に比べて多い。300 万～600 万円未満や 600 万円以上では「正社員・正規職員」と「自営業・家業」をあわせた割合は 9 割を超えている。

世帯類型別でみると、ふたり親で「正社員・正規職員」が 81.7%と最も多い。

図表 1－5 父親の就業状況〔全体、世帯収入別、世帯類型別〕

		標本数	正社員・正規職員	非正規社員・パート・契約社員	自営業・家業	日雇	内職	求職中	家事専業	お父さんはいない	その他
全 体		9,985	7,404	197	1,352	9	2	71	23	884	43
		100.0	74.2	2.0	13.5	0.1	0.0	0.7	0.2	8.9	0.4
世帯収入別	300万円未満	1,396	24.9	4.5	19.5	0.4	—	2.0	0.6	45.9	2.1
	300万～600万円未満	3,317	74.0	2.7	16.3	0.1	0.0	1.0	0.2	5.5	0.2
	600万円以上	5,272	87.3	0.9	10.2	—	0.0	0.2	0.1	1.2	0.1
世帯類型別	ひとり親等	1,206	19.2	1.7	5.7	—	—	0.4	0.1	72.5	0.5
	ふたり親	8,779	81.7	2.0	14.6	0.1	0.0	0.8	0.3	0.1	0.4

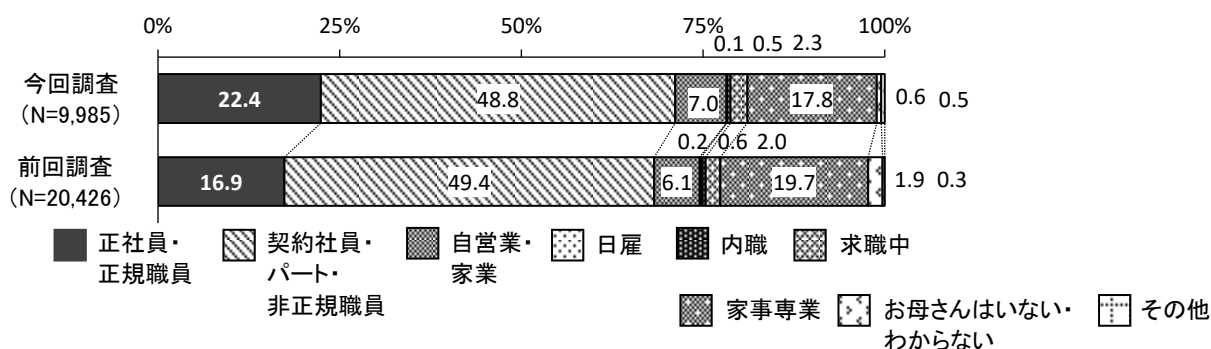
(2) 母親の就業状況

お子さんのお母さんの現在の就業状況について教えてください。(Q31)

母親の就業状況は「契約社員・パート・非正規職員」が48.8%と最も多く、次いで「正社員・正規職員」が22.4%、「家事専業」が17.8%、「自営業・家業」が7.0%となっている。

前回調査と比べると、今回調査の方が「正社員・正規職員」が5.5ポイント増え、「契約社員・パート・非正規職員」や「家事専業」がわずかに減っている。

図表1-6 母親の就業状況〔全体〕(前回調査比較)



世帯収入別でみると、600万円以上で「正社員・正規職員」(26.0%)や「家事専業」(21.6%)が2割強から2割台半ばと他の世帯収入に比べて多い。300～600万円未満では「契約社員・パート・非正規職員」が55.9%と最も多い。

世帯類型別でみると、ひとり親等では「正社員・正規職員」が36.8%とふたり親(20.4%)より16.4ポイント高く、ふたり親では「契約社員・パート・非正規職員」が50.1%とひとり親等(39.8%)より10.3ポイント高くなっている。

図表1-7 母親の就業状況〔全体、世帯収入別、世帯類型別〕

(%)											
		標 本 数	正社員・ 正規職員	パート・ 非正規職員	自営業・ 家業	日 雇	内 職	求 職 中	家事 専業	お母さん はいない	その他
全 体		9,985 100.0	2,236 22.4	4,875 48.8	702 7.0	11 0.1	45 0.5	232 2.3	1,774 17.8	60 0.6	50 0.5
収入別	300万円未満	1,396	19.6	51.5	9.3	0.4	0.5	5.4	9.6	1.1	2.7
	300万～600万円未満	3,317	17.9	55.9	7.2	0.1	0.4	2.6	15.1	0.8	0.2
	600万円以上	5,272	26.0	43.7	6.3	0.1	0.5	1.4	21.6	0.4	0.1
世帯別	ひとり親等	1,206	36.8	39.8	6.9	0.3	0.2	5.1	3.2	4.8	2.8
	ふたり親	8,779	20.4	50.1	7.1	0.1	0.5	1.9	19.8	0.0	0.2

4. 世帯収入

2019 年、2020 年のあなたの家族全員の収入（税込）の合計を教えてください。

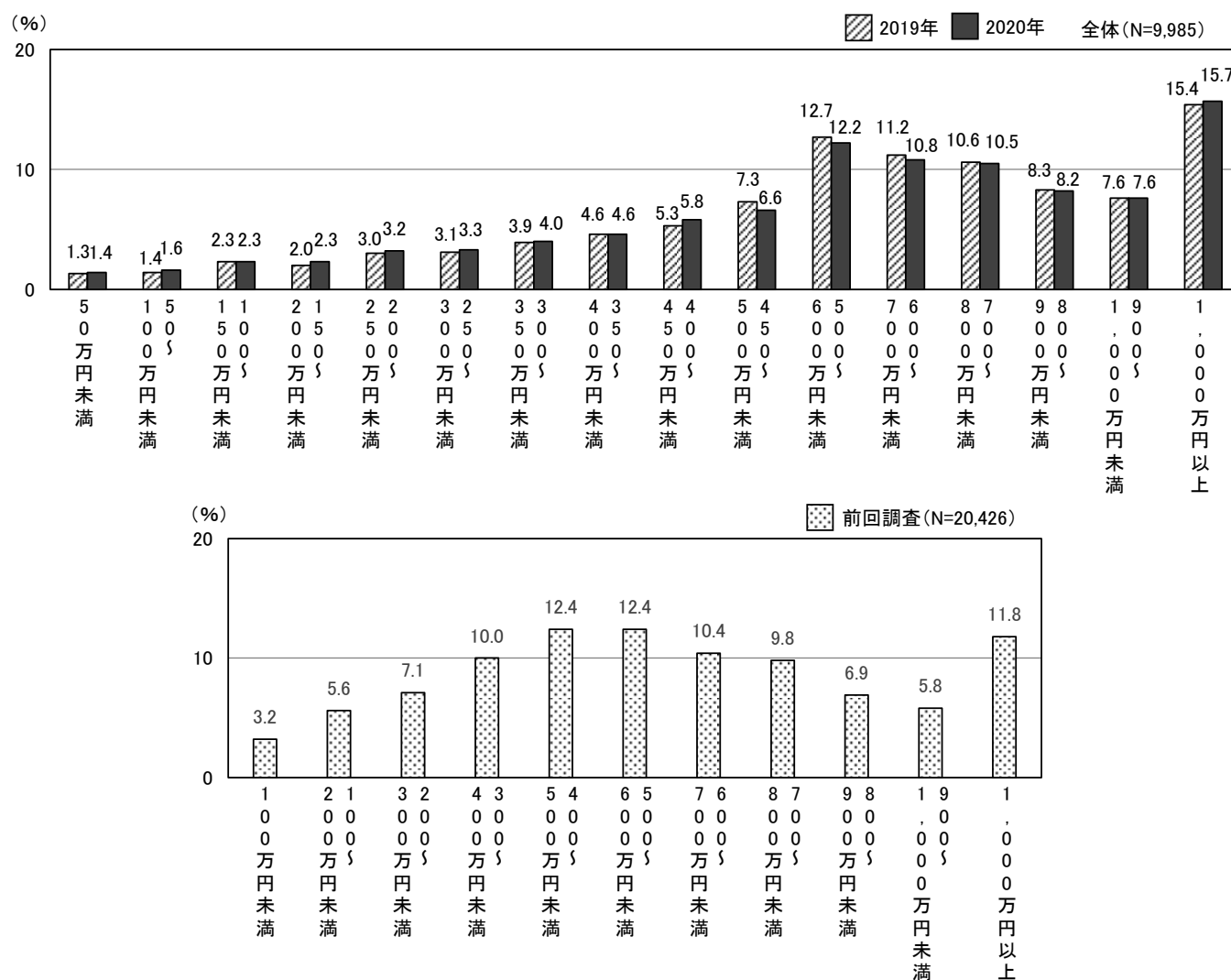
※公的な手当・援助は除いた額をお答えください。

※収入には働いて得た給料だけではなく、株式配当や副収入を含みます。（Q29）

2019 年と 2020 年の家族全員の収入の合計は、2019 年、2020 年とも「1,000 万円以上」が 1 割台半ばで最も多い。次いで「500～600 万円未満」「600～700 万円未満」「700～800 万円未満」が 1 割台となっている。他方、『300 万円未満』は 2019 年で 13.1%、2020 年は 14.1%である。

『300 万円未満』は、今回調査（14.1%）の方が、前回調査（15.9%）より 1.8 ポイント低く、『300 万～600 万円未満』は、今回調査（33.2%）の方が、前回調査（34.8%）より 1.6 ポイント低い。なお、『600 万円以上』は今回調査（52.8%）の方が前回調査（44.7%）より 8.1 ポイント高い。

図表 1－8 2019 年、2020 年の世帯収入〔全体〕（前回調査比較）



※前回調査では「無回答」4.6%あり

第2章 子どもの生活習慣

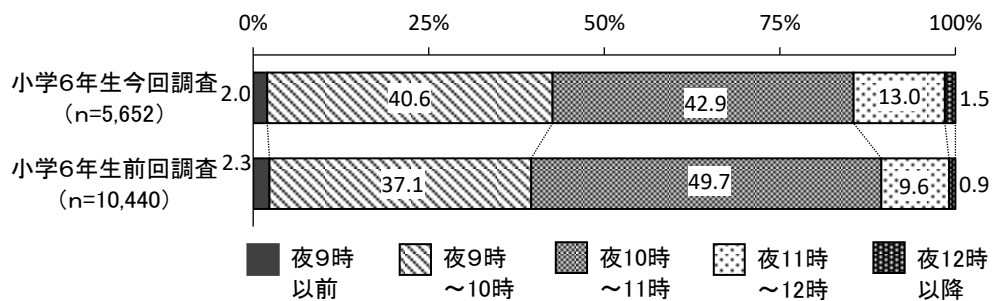
5. 平日の就寝時刻

お子さんが平日に寝る時刻は何時ごろですか。(Q15)

小学6年生の子どもの平日の就寝時刻は「夜9時～10時」が40.6%、「夜10時～11時」が42.9%とこの2つの時間帯が4割台が多い。「夜11時～12時」は13.0%である。

前回調査と比べると、「夜9時～10時」が3.5ポイント増えているものの、「夜10時～11時」が6.8ポイント減り、『夜11時以降』の遅い時間帯が4ポイント増えており、やや就寝時刻が遅くなっている。

図表2-1 平日の就寝時刻〔小学6年生全体〕（前回調査比較）



※前回調査では「無回答」0.4%あり

世帯収入別でみると、300万円未満では「夜9時～10時」「夜10時～11時」の割合が他の世帯収入に比べてやや低く、「夜9時以前」の早い時間と『夜11時以降』の遅い時間帯がやや高い。

世帯類型別でみると、ひとり親等では「夜9時以前」の早い時間帯の割合がやや高いが、『夜11時以降』の遅い時間帯の割合が21.7%とふたり親（13.6%）よりも8.1ポイント高く、就寝時刻が遅くなっている。

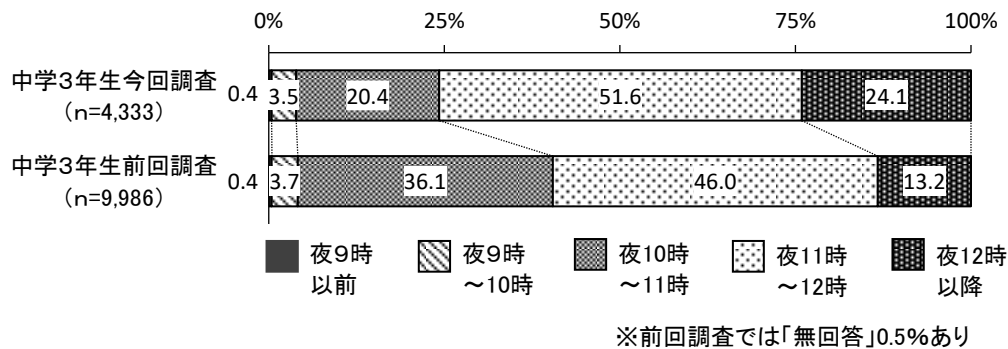
図表2-2 平日の就寝時刻〔小学6年生全体、世帯収入別、世帯類型別〕

								(%)
		標 本 数	夜 9 時 以 前	夜 9 時 ～ 1 0 時	夜 1 0 時 ～ 1 1 時	夜 1 1 時 ～ 1 2 時	夜 1 2 時 以 降	
小学6年生全体		5,652 100.0	112 2.0	2,294 40.6	2,425 42.9	737 13.0	84 1.5	
収入 世 帯 別	300万円未満	762	3.4	35.4	40.2	17.1	3.9	
	300万～600万円未満	1,868	1.8	41.9	43.2	11.9	1.1	
	600万円以上	3,022	1.7	41.1	43.4	12.7	1.1	
類型 世 帯 別	ひとり親等	589	3.4	31.7	43.1	19.0	2.7	
	ふたり親	5,063	1.8	41.6	42.9	12.3	1.3	

中学3年生の子どもの平日の就寝時刻は「夜11時～12時」が51.6%と最も多い。次いで「夜12時以降」が24.1%、「夜9時～10時」が20.4%となっている。

前回調査と比べると、「夜9時～10時」が15.7ポイント減り、「夜11時～12時」が5.6ポイント、「夜12時以降」が10.9ポイント増えており、就寝時刻が遅くなっている。

図表2-3 平日の就寝時刻〔中学3年生全体〕（前回調査比較）



世帯収入別でみると、「夜11時～12時」は収入が高くなるほど割合が高く、600万円以上で53.2%となっており、『夜11時以降』の割合をみると、300万円未満で72.4%、300万～600万円未満で73.6%、600万円以上で77.9%と収入が高くなるほど遅い時間帯の割合が高くなっている。

世帯類型別でみると、『夜11時以降』の割合はいずれの世帯類型も7割台半ばとかわらないが、ひとり親等では「夜12時以降」が26.1%とふたり親（23.8%）よりも2.3ポイント高くなっている。

図表2-4 平日の就寝時刻〔中学3年生全体、世帯収入別、世帯類型別〕

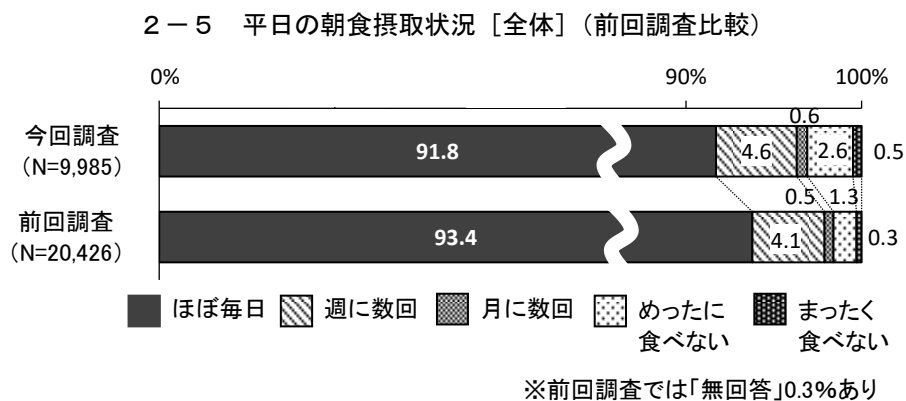
			(%)				
		標 本 数	夜 9 時 以 前	夜 9 時 ～ 1 0 時	夜 1 0 時 ～ 1 1 時	夜 1 1 時 ～ 1 2 時	夜 1 2 時 以 降
中学3年生全体		4,333 100.0	17 0.4	153 3.5	884 20.4	2,235 51.6	1,044 24.1
収入 世帯 別	300万円未満	634	0.6	5.2	21.8	46.7	25.7
	300万～600万円未満	1,449	0.5	4.3	21.5	51.2	22.4
	600万円以上	2,250	0.3	2.5	19.3	53.2	24.7
世帯 類型 別	ひとり親等	617	0.5	4.7	18.8	49.9	26.1
	ふたり親	3,716	0.4	3.3	20.7	51.9	23.8

6. 平日の朝食摂取状況

お子さんは平日に朝食を食べていますか。(Q9)

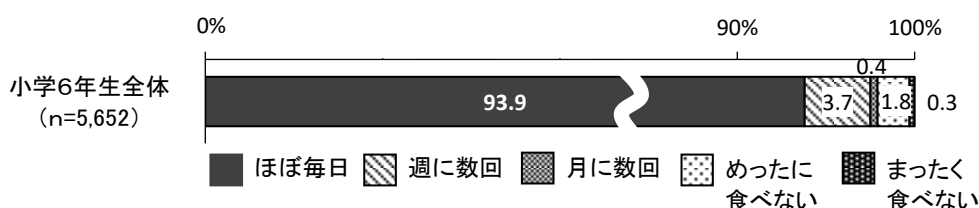
子どもの平日の朝食摂取状況については、「ほぼ毎日」が91.8%と最も多いものの、「週に数回」が4.6%あり、その他は、「月に数回」が0.6%、「めったに食べない」が2.6%、「まったく食べない」が0.5%となっている。

前回調査と比べると、「ほぼ毎日」がやや減少し、『毎日食べていない』割合がやや増えている。



小学6年生の平日の朝食摂取状況は、「ほぼ毎日」が93.9%と最も多いものの、「週に数回」が3.7%あり、その他は、「月に数回」が0.4%、「めったに食べない」が1.8%、「まったく食べない」が0.3%となっている。

図表2-6 平日の朝食摂取状況 [小学6年生全体]



世帯収入別にみると、いずれの世帯収入でも「ほぼ毎日」が最も多いが、収入が高くなるほど割合は高くなっている。300万円未満では85.0%と他の世帯に比べて1割前後低い。また、「週に数回」が8.9%と1割弱あり他の収入に比べて割合が高い。その他は、「月に数回」が0.9%、「めったに食べない」が4.7%、「まったく食べない」が0.4%となっている。

世帯類型別にみると、いずれの世帯も「ほぼ毎日」が最も多いが、ひとり親等では83.5%とふたり親より11.6ポイント低い。また、「週に数回」が9.7%と約1割あるほか、「月に数回」が1.4%、「めったに食べない」が4.9%、「まったく食べない」が0.5%であり、ふたり親に比べて高い。

図表2-7 平日の朝食摂取状況 [小学6年生全体、世帯収入別、世帯類型別]

		(%)					
		標本数	ほぼ毎日	週に数回	月に数回	めったに食べない	まったく食べない
小学6年生全体		5,652	5,307	207	21	100	17
		100.0	93.9	3.7	0.4	1.8	0.3
収入世帯別	300万円未満	762	85.0	8.9	0.9	4.7	0.4
	300万～600万円未満	1,868	93.5	3.7	0.5	1.8	0.5
	600万円以上	3,022	96.4	2.3	0.1	1.0	0.2
世帯類型別	ひとり親等	589	83.5	9.7	1.4	4.9	0.5
	ふたり親	5,063	95.1	3.0	0.3	1.4	0.3

中学3年生の平日の朝食摂取状況は、「ほぼ毎日」が89.1%と最も多いが、「週に数回」が5.8%あり、その他「月に数回」が0.8%、「めったに食べない」が3.6%、「まったく食べない」が0.7%となっている。

図表2-8 平日の朝食摂取状況〔中学3年生全体〕



世帯収入別にみると、いずれの世帯収入でも「ほぼ毎日」が最も多いが、収入が高くなるほど割合は高くなっており、600万円以上では92.8%であるが、300万円未満では75.6%と他の世帯に比べて1割以上低い。また、「週に数回」が11.5%と1割強、その他は、「月に数回」が1.6%、「めったに食べない」が9.9%、「まったく食べない」が1.4%であり、他の収入に比べて割合が高い。

世帯類型別にみると、いずれの世帯も「ほぼ毎日」が最も多いが、ひとり親等では77.0%とふたり親より14.1ポイント低い。また、「週に数回」が11.0%と1割強あり、その他「月に数回」が1.5%、「めったに食べない」が9.2%、「まったく食べない」が1.3%であり、ふたり親に比べて高い。

図表2-9 平日の朝食摂取状況〔中学3年生全体、世帯収入別、世帯類型別〕

		標本数	ほぼ毎日	週に数回	月に数回	めったに食べない	まったく食べない
中学3年生全体		4,333 100.0	3,860 89.1	251 5.8	34 0.8	158 3.6	30 0.7
収入世帯別	300万円未満	634	75.6	11.5	1.6	9.9	1.4
	300万～600万円未満	1,449	89.2	5.4	1.0	3.6	0.8
	600万円以上	2,250	92.8	4.4	0.4	1.9	0.4
世帯類型別	ひとり親等	617	77.0	11.0	1.5	9.2	1.3
	ふたり親	3,716	91.1	4.9	0.7	2.7	0.6

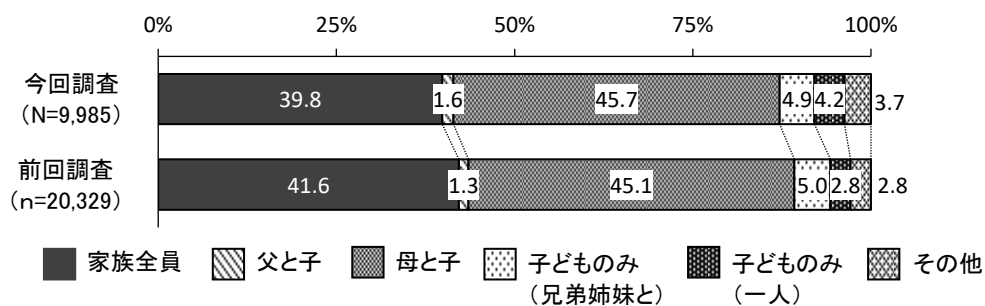
7. 平日の夕食を主に一緒に食べる人

お子さんは平日の夕食を主に誰と食べていますか。（Q14）

平日の夕食を主に一緒に食べる人は「母と子」が45.7%と最も高く、次いで「家族全員」が39.8%である。以下、「子どものみ（兄弟姉妹と）」は4.9%、「子どものみ（一人）」は4.2%となっており、『子どものみ』で夕食を食べている割合は9.1%である。

前回調査と比べると、あまり大きな変化はみられないが、「子どものみ（一人）」がやや増えている。

図表 2－10 平日の夕食を主に一緒に食べる人〔全体〕（前回調査比較）



※前回調査では「無回答」1.4%あり

世帯収入別でみると、収入が高くなるほど「母と子」の割合が高くなっている。他方、収入が低い世帯ほど「家族全員」や「子どものみ（兄弟姉妹と）」「子どものみ（一人）」の割合が高くなっている。前回調査に比べ、300万円未満では「母と子」の割合が今回調査では19.7ポイント増え、「家族全員」が21.5ポイント減っている。

世帯類型別でみると、「家族全員」が、ひとり親等では43.9%であり、ふたり親（39.3%）より高いほか、「子どものみ（兄弟姉妹と）」（7.5%）、「子どものみ（一人）」（6.1%）の割合がふたり親と比べて高い。前回調査に比べ、ひとり親等では「母と子」が31.7ポイントと大きく増え、「家族全員」が32.6ポイント減っている。

子どもの学年別でみると、小学6年生では「家族全員」（41.7%）や「母と子」（47.6%）の割合が中学3年生より約4ポイント高く、中学3年生では「子どものみ（兄弟姉妹と）」（5.8%）、「子どものみ（一人）」（7.7%）が13.5%と小学6年生（5.8%）より7.7ポイント高い。前回調査に比べ、中学3年生で「家族全員」が4.7ポイント減り、「子どものみ（一人）」が3.1ポイント高くなっている。

図表2-11 平日の夕食を主に一緒に食べる人
〔全体、世帯収入別、世帯類型別、子どもの学年別〕（前回調査比較）

		(%)							
		標本数	家族全員	父と子	母と子	（子どものみ（兄弟姉妹と））	（子どものみ（一人））	その他	無回答
今回調査		9,985 100.0	3,975 39.8	160 1.6	4,566 45.7	493 4.9	419 4.2	372 3.7	- -
収入世帯別	300万円未満	1,396	46.8	1.5	35.4	7.5	5.2	3.6	-
	300万～600万円未満	3,317	41.6	1.6	44.3	5.1	4.1	3.3	-
	600万円以上	5,272	36.8	1.6	49.4	4.2	4.0	4.0	-
別世帯類型	ひとり親等	1,206	43.9	2.2	35.1	7.5	6.1	5.3	-
	ふたり親	8,779	39.3	1.5	47.2	4.6	3.9	3.5	-
別子ども学年	小学6年生	5,652	41.7	1.6	47.6	4.3	1.5	3.3	-
	中学3年生	4,333	37.3	1.6	43.3	5.8	7.7	4.3	-
前回調査		20,329 100.0	8,447 41.6	264 1.3	9,173 45.1	1,024 5.0	566 2.8	574 2.8	281 1.4
収入世帯別	300万円未満	3,234	68.3	1.0	15.7	6.6	3.6	2.6	2.2
	300万～600万円未満	7,076	42.8	1.5	44.8	4.9	2.2	2.8	1.1
	600万円以上	9,099	31.1	1.3	56.6	4.6	2.7	2.8	0.8
別世帯類型	ひとり親等	2,995	76.5	0.2	3.4	6.4	4.5	4.9	4.0
	ふたり親	17,283	35.6	1.5	52.4	4.8	2.5	2.5	0.8
別子ども学年	小学6年生	10,397	41.1	1.2	48.7	3.9	1.0	2.9	1.1
	中学3年生	9,932	42.0	1.4	41.3	6.2	4.6	2.7	1.7

第3章 子どもの学習、放課後の過ごし方など

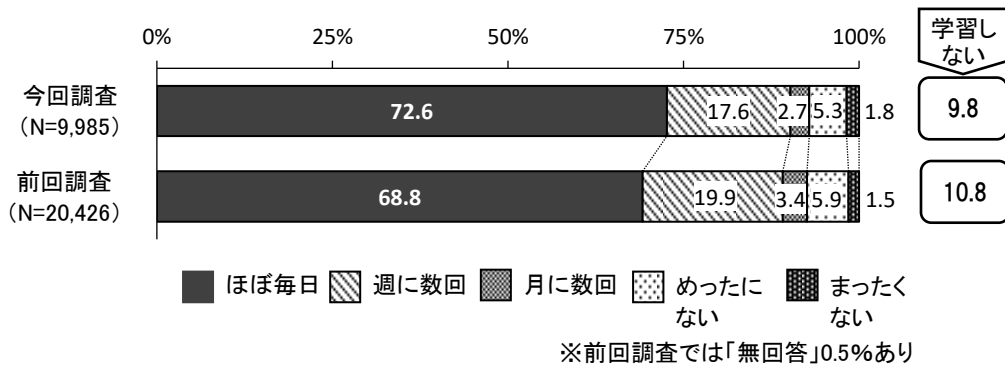
8. 自宅での学習状況

お子さんは自宅で学習をしていますか。(Q11)

子どもの自宅での学習は、「ほぼ毎日」が72.6%と最も高い。次いで「週に数回」が17.6%である。「月に数回」(2.7%)、「めったにない」(5.3%)、「まったくない」(1.8%)をあわせた『学習しない』は9.8%である。

前回調査と比べると、「ほぼ毎日」が3.8ポイント増えており、『学習しない』は10.8%から大差がない。

図表3-1 自宅での学習状況〔全体〕(前回調査比較)



世帯収入別でみると、収入が高いほど「ほぼ毎日」の割合が高くなり、収入が低いほど「週に数回」や『学習しない』の割合が高くなっている。

世帯類型別でみると、ひとり親等では「ほぼ毎日」は56.6%とふたり親(74.8%)に比べて18.2ポイント低く、『学習しない』が20.8%とふたり親(8.2%)より12.6ポイント高い。

子どもの学年別でみると、小学6年生では「ほぼ毎日」が77.6%、中学生3年生が66.2%となっている。『学習しない』は小学6年生が7.8%、中学3年生が12.4%となっている。

図表3-2 自宅での学習状況〔全体、世帯収入別、世帯類型別、子どもの学年別〕

		標本数	ほぼ毎日	週に数回	月に数回	めったにない	まったくない	学習しない (%)
全 体		9,985 100.0	7,252 72.6	1,757 17.6	267 2.7	532 5.3	177 1.8	976 9.8
収入別	300万円未満	1,396	56.8	23.1	5.4	10.7	3.9	20.0
	300万～600万円未満	3,317	69.3	19.9	2.8	6.0	2.1	10.9
	600万円以上	5,272	78.9	14.7	1.9	3.5	1.0	6.4
世帯類型別	ひとり親等	1,206	56.6	22.6	5.2	11.1	4.5	20.8
	ふたり親	8,779	74.8	16.9	2.3	4.5	1.4	8.2
子どもの学年別	小学6年生	5,652	77.6	14.7	2.0	4.4	1.4	7.8
	中学3年生	4,333	66.2	21.4	3.6	6.5	2.3	12.4

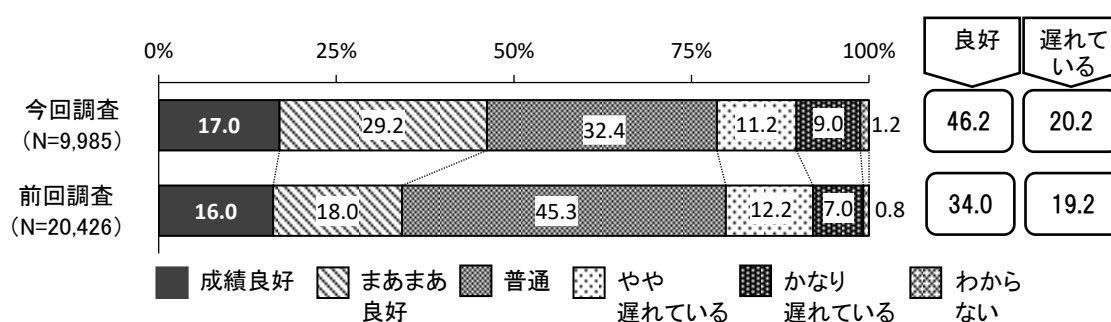
9. 学校などでの勉強の成績

お子さんの学校などでの勉強の成績はいかがですか。(Q16)

子どもの学校などでの成績は、「普通」が 32.4%と最も多い。「成績良好」(17.0%)と「まあまあ良好」(29.2%)をあわせた『良好』は 46.2%、「かなり遅れている」(9.0%)と「やや遅れている」(11.2%)をあわせた『遅れている』は 20.2%となっている。

前回調査と比べると、「普通」が 12.9 ポイント減少し、「まあまあ良好」が 11.2 ポイント増加しており、結果『良好』が 12.2 ポイント増えている。『遅れている』の割合には大差がない。

図表 3-3 学校などでの勉強の成績【全体】(前回調査比較)



世帯収入別でみると、収入が高い世帯ほど『良好』の割合が高くなり、収入が低い世帯ほど『遅れている』の割合が高くなっている。前回調査に比べ、いずれの世帯収入でも「普通」の割合が減り、『良好』のうち「まあまあ良好」の割合が約8～12ポイント高くなっている。一方で、300万円未満では「かなり遅れている」の割合も5.2ポイント増えている。

世帯類型別でみると、ひとり親等では『良好』が31.9%でふたり親（48.1%）に比べて16.2ポイント低く、『遅れている』が35.9%でふたり親（18.1%）に比べて17.8ポイント高い。前回調査に比べ、いずれの世帯類型でも『良好』の割合が約8～12ポイント増えている。しかし、ひとり親等では「かなり遅れている」の割合も4.9ポイント増えている。

子どもの学年別でみると、小学6年生は『良好』が51.9%、中学3年生は38.6%となっている。『遅れている』は小学6年生では12.5%、中学3年生では30.2%である。前回調査に比べ、いずれの学年も『良好』の割合が約10～12ポイント増えているが、一方で小学6年生では『遅れている』もやや増えている。

図表3－4 学校などでの勉強の成績〔全体、世帯収入別、世帯類型別、子どもの学年別〕（前回調査比較）

		標 本 数	成 績 良 好	良 ま あ ま あ	普 通	遅 や れ て い る	遅 か れ な て り い る	わ か ら な い	無 回 答	良 好	遅 れ て い る
今回調査		9,985 100.0	1,693 17.0	2,915 29.2	3,240 32.4	1,115 11.2	902 9.0	120 1.2	－ －	4,608 46.2	2,017 20.2
収入世帯別	300万円未満	1,396	8.6	20.0	32.6	18.1	18.5	2.2	－	28.6	36.6
	300万～600万円未満	3,317	13.3	27.0	34.9	13.0	10.6	1.3	－	40.3	23.6
	600万円以上	5,272	21.5	33.0	30.9	8.2	5.5	0.9	－	54.5	13.7
別類型世帯	ひとり親等	1,206	9.8	22.1	30.7	17.1	18.8	1.5	－	31.9	35.9
	ふたり親	8,779	17.9	30.2	32.7	10.4	7.7	1.2	－	48.1	18.1
別学年の子ども	小学6年生	5,652	19.3	32.6	34.4	8.4	4.1	1.2	－	51.9	12.5
	中学3年生	4,333	13.8	24.8	29.9	14.8	15.4	1.2	－	38.6	30.2
前回調査		20,426 100.0	3,269 16.0	3,680 18.0	9,259 45.3	2,499 12.2	1,436 7.0	163 0.8	120 0.6	6,949 34.0	3,935 19.2
収入世帯別	300万円未満	3,252	9.5	12.4	43.9	18.9	13.3	1.3	0.6	21.9	32.2
	300万～600万円未満	7,104	12.1	16.7	48.7	13.6	7.7	0.8	0.4	28.8	21.3
	600万円以上	9,126	21.6	21.4	43.1	8.8	4.1	0.6	0.4	43.0	12.9
別類型世帯	ひとり親等	3,015	9.8	13.7	41.8	18.9	13.9	1.2	0.7	23.5	32.8
	ふたり親	17,353	17.1	18.8	46.0	11.1	5.8	0.7	0.5	35.9	16.9
別学年の子ども	小学6年生	10,440	18.8	20.7	50.0	7.0	2.2	0.8	0.6	39.5	9.2
	中学3年生	9,986	13.1	15.2	40.5	17.7	12.1	0.8	0.6	28.3	29.8

お子さんは学校の授業以外で運動（部活動、スポーツクラブなど）をしていますか。（Q10）

前回調査と比べると、前回調査では「ほぼ毎日」が 31.8%で最も多かったが、今回調査では 24.2 ポイント減り、『運動しない』が 18.2 ポイント増えている。

運動している割合

調査	ほぼ毎日	週に数回	月に数回	めったにない	まったく ない	無回答
今回調査 (N=9,985)	7.6	29.6	12.6	16.8	33.2	0.1
前回調査 (N=20,426)	31.8	27.5	8.4	9.1	22.7	0.5

0% 25% 50% 75% 100%

運動
しない

50.0

31.8

ほぼ毎日 週に数回 月に数回 めったに
ない まったく
ない 無回答

子どもの学年別でみると、小学6年生では『運動しない』(40.2%)と「週に数回」(40.0%)が約4割と同程度となっている。中学3年生では『運動しない』が62.9%となっている。

									(%)
		標 本 数	ほ ぼ 毎 日	週 に 数 回	月 に 数 回	な め い っ た に	な ま い っ た く	無 回 答	い 運 動 し な
全 体		9,985 100.0	760 7.6	2,960 29.6	1,260 12.6	1,680 16.8	3,317 33.2	8 0.1	4,997 50.0
収入 世帯 別	300万円未満	1,396	6.4	21.3	9.7	15.6	46.9	－	62.5
	300万～600万円未満	3,317	6.6	28.4	12.8	16.0	36.1	0.1	52.1
	600万円以上	5,272	8.6	32.6	13.3	17.7	27.8	0.1	45.5
別 類 世帯 型	ひとり親等	1,206	6.2	21.4	10.4	17.0	45.0	－	62.0
	ふたり親	8,779	7.8	30.8	12.9	16.8	31.6	0.1	48.4
別 学 も子 年のど	小学6年生	5,652	6.5	40.0	13.3	12.2	28.0	－	40.2
	中学3年生	4,333	9.1	16.1	11.7	22.8	40.1	0.2	62.9

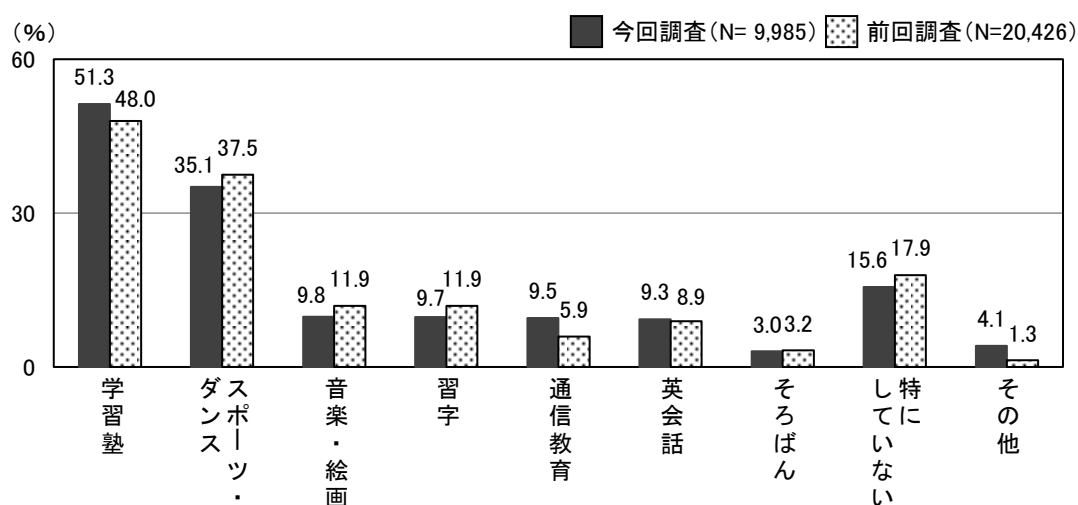
11. 習い事の実施状況

お子さんは習い事をしていますか。(あてはまるものすべてにチェック) (Q13)

子どもの習い事の状況について、「学習塾」が51.3%で最も多く5割を超えている。次いで「スポーツ・ダンス」が35.1%、「音楽・絵画」(9.8%)、「習字」(9.7%)、「通信教育」(9.5%)、「英会話」(9.3%)などが1割弱となっている。「特にしていない」は15.6%である。

前回調査と比べると、「学習塾」や「通信教育」がやや増えており、「スポーツ・ダンス」「音楽・絵画」「習字」などは割合がやや減っている。

図表3-7 習い事の実施状況〔全体〕(前回調査比較)



世帯収入別でみると、すべての習い事で、収入が高い世帯ほど実施している割合が高くなっている。300万円未満では「特にしていない」が35.2%と高い。前回調査に比べ600万円未満で「スポーツ・ダンス」が約4～5ポイント減っている。

世帯類型別でみると、すべての習い事で、ふたり親の世帯で実施している割合がひとり親等に比べて高い。ひとり親等では「特にしていない」が31.3%とふたり親（13.4%）に比べ17.9ポイント高い。前回調査に比べ、「学習塾」はいずれの世帯もやや増え、また「通信教育」もふたり親でやや増えている。その他の項目の割合にはあまり大きな差はみられない。

子どもの学年別でみると、小学6年生では「スポーツ・ダンス」（51.4%）、中学3年生では「学習塾」（75.2%）の習い事が多い。「特にしていない」は小学6年生16.2%、中学3年生14.8%である。

図表3-8 習い事の実施状況〔全体、世帯収入別、世帯類型別、子どもの学年別〕（前回調査比較）

											(%)
		標 本 数	学 習 塾	ダ ス ポ ー ツ ・	音 楽 ・ 絵 画	習 字	通 信 教 育	英 会 話	そ ろ ば ん	特 に し て い な い	そ の 他
今回調査		9,985 100.0	5,123 51.3	3,506 35.1	982 9.8	973 9.7	953 9.5	930 9.3	304 3.0	1,556 15.6	406 4.1
収入世帯別	300万円未満	1,396	33.6	24.1	4.7	6.9	5.0	4.3	1.6	35.2	3.5
	300万～600万円未満	3,317	44.9	34.2	7.9	9.2	9.0	7.1	3.0	19.2	3.7
	600万円以上	5,272	60.0	38.6	12.4	10.9	11.1	12.0	3.5	8.1	4.4
世帯類型別	ひとり親等	1,206	41.5	22.8	5.6	5.6	5.8	6.1	1.7	31.3	4.6
	ふたり親	8,779	52.7	36.8	10.4	10.3	10.1	9.8	3.2	13.4	4.0
子どもの学年別	小学6年生	5,652	33.0	51.4	13.6	14.0	12.9	12.8	5.2	16.2	5.4
	中学3年生	4,333	75.2	13.8	4.9	4.1	5.2	4.7	0.3	14.8	2.3
前回調査		20,426 100.0	9,798 48.0	7,656 37.5	2,428 11.9	2,437 11.9	1,215 5.9	1,827 8.9	663 3.2	3,647 17.9	268 1.3
収入世帯別	300万円未満	3,252	31.7	29.1	5.4	7.5	2.7	3.8	2.4	35.5	1.1
	300万～600万円未満	7,104	41.6	38.3	9.9	11.9	5.5	7.0	3.1	19.8	1.2
	600万円以上	9,126	59.2	40.3	16.0	13.8	7.7	12.4	3.8	9.7	1.5
世帯類型別	ひとり親等	3,015	38.6	26.3	6.9	7.6	2.5	4.6	2.5	32.7	1.4
	ふたり親	17,353	49.6	39.5	12.8	12.7	6.5	9.7	3.4	15.3	1.3

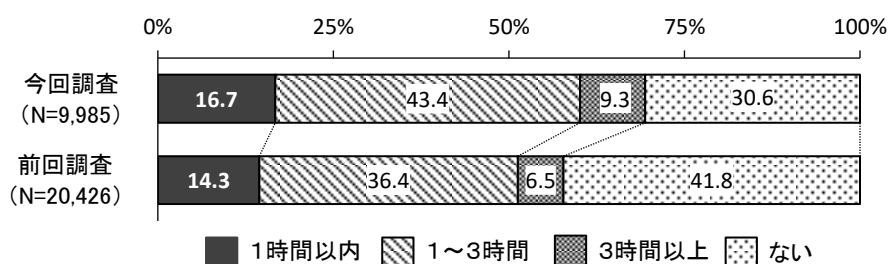
12. 放課後の留守番状況

お子さんは、通常、放課後に子どもだけ（きょうだい含む）で留守番をすることがありますか。
ある場合は、選択肢1～4から留守番時間を選んでください。（Q12）

放課後に子どもだけで留守番をすることについて、「1～3時間」が43.4%と最も多い。「ない」は30.6%である。

前回調査と比べると、今回調査の方が「ない」が11.2ポイント低く、各時間帯とも割合が増えている。

図表3-9 放課後の留守番状況〔全体〕（前回調査比較）



世帯収入別でみると、収入が高い世帯では「ない」や「1時間以内」の割合が、収入が低い世帯では「1～3時間」「3時間以上」の割合が高くなっている。特に300万円未満では「3時間以上」が21.0%と他の世帯より13ポイント前後高い。

世帯類型別でみると、ふたり親では「ない」や「1時間以内」、ひとり親等では「1～3時間」「3時間以上」の割合が高く、特に「3時間以上」はひとり親等では24.5%とふたり親（7.2%）より17.3ポイント高い。

子どもの学年別でみると、いずれも「1～3時間以内」が4割強と多いが、「1時間以内」は小学6年生、「3時間以上」は中学3年生で割合が高い。

図表3-10 放課後の留守番状況〔全体、世帯収入別、世帯類型別、子どもの学年別〕

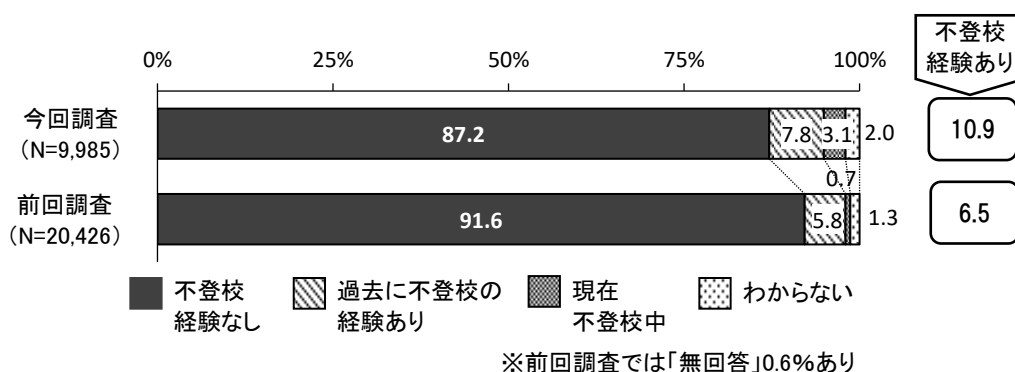
		標本数	1時間以内	1～3時間	3時間以上	ない
全 体		9,985 100.0	1,663 16.7	4,337 43.4	932 9.3	3,053 30.6
収入世帯別	300万円未満	1,396	11.2	44.6	21.0	23.2
	300万～600万円未満	3,317	16.8	45.6	8.5	29.1
	600万円以上	5,272	18.0	41.7	6.8	33.4
別類型世帯	ひとり親等	1,206	8.0	46.8	24.5	20.6
	ふたり親	8,779	17.8	43.0	7.2	32.0
別学年の子ども	小学6年生	5,652	17.7	43.3	8.4	30.6
	中学3年生	4,333	15.2	43.7	10.5	30.6

13. 不登校の経験

お子さんは、不登校の経験がありますか。(Q17)

子どもの不登校の経験について、「不登校経験なし」が87.2%で最も多いが、「過去に不登校の経験あり」(7.8%)と「現在不登校中」(3.1%)をあわせた『不登校経験あり』が10.9%ある。
前回調査と比べると、『不登校経験あり』は4.4ポイント増えている。

図表3-11 不登校の経験 [全体] (前回調査比較)



世帯収入別でみると、世帯の収入が低いほど「過去に不登校の経験あり」や「現在不登校中」の割合が高くなり、300万円未満の『不登校経験あり』は21.0%、300～600万円未満では10.5%と1割を超えている。

世帯類型別でみると、ひとり親等の『不登校経験あり』は21.2%とふたり親(9.4%)を11.8ポイント上回っている。

子どもの学年別でみると、『不登校経験あり』は小学6年生では9.4%、中学3年生では12.7%となっている。

図表3-12 不登校の経験 [全体、世帯収入別、世帯類型別、子どもの学年別]

		標本数	不登校経験なし	過去に不登校の経験あり	現在不登校中	わからない	不登校経験あり (%)
全 体		9,985 100.0	8,705 87.2	777 7.8	307 3.1	196 2.0	1,084 10.9
収入別	300万円未満	1,396	75.7	13.8	7.2	3.4	21.0
	300万～600万円未満	3,317	87.5	7.8	2.7	2.1	10.5
	600万円以上	5,272	90.0	6.2	2.3	1.5	8.5
世帯類型別	ひとり親等	1,206	75.6	14.6	6.6	3.2	21.2
	ふたり親	8,779	88.8	6.8	2.6	1.8	9.4
子どもの学年別	小学6年生	5,652	88.5	7.2	2.2	2.1	9.4
	中学3年生	4,333	85.5	8.5	4.2	1.8	12.7

14. 進学について

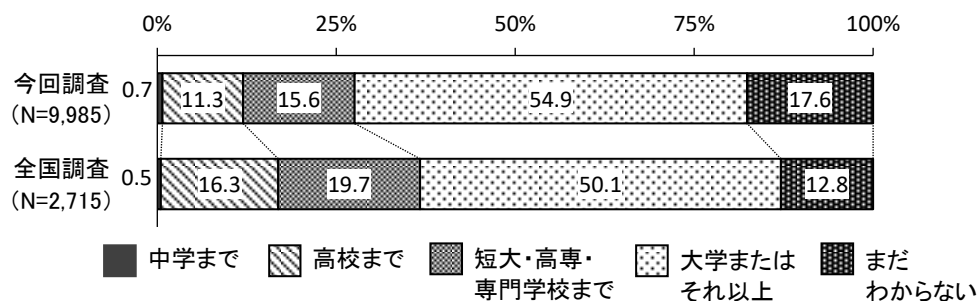
(1) 子どもの進学段階

お子さんは将来、現実的に見てどの段階まで進学すると思いますか。(Q18)

子どもが将来、どの段階まで進学すると思うかについて、「大学またはそれ以上」が 54.9%と最も多く、次いで「まだわからない」が 17.6%、「短大・高専・専門学校まで」は 15.6%、「高校まで」は 11.3%、「中学まで」は 0.7%である。

全国調査と比べると、「大学またはそれ以上」は今回調査の方が 4.8 ポイント高く、「短大・高専・専門学校まで」は 4.1 ポイント、「高校まで」は 5 ポイント低い。

図表 3-13 子どもの進学段階〔全体〕(全国調査比較)



世帯収入別でみると、「大学またはそれ以上」は 600 万円以上では 69.6%、300 万～600 万円未満では 43.6%、300 万円未満では 26.2%となっている。300 万円未満では「高校まで」が 27.9%と他の世帯に比べて高くなっている。

世帯類型別でみると、「大学またはそれ以上」はふたり親では 57.4%、ひとり親等では 36.3%となっている。「高校まで」がひとり親等では 23.8%であり、ふたり親 (9.6%) に比べて 14.2 ポイント高い。

図表 3-14 子どもの進学段階〔全体、世帯収入別、世帯類型別〕

		(%)					
		標 本 数	中 学 ま で	高 校 ま で	短大・高専・ 専門学校 ま で	大学または それ以上	まだ わ か ら な い
全 体		9,985 100.0	66 0.7	1,126 11.3	1,562 15.6	5,478 54.9	1,753 17.6
収入 世帯 別	300万円未満	1,396	2.5	27.9	21.0	26.2	22.4
	300万～600万円未満	3,317	0.7	14.1	20.3	43.6	21.3
	600万円以上	5,272	0.2	5.1	11.3	69.6	13.9
別 類 世帯	ひとり親等	1,206	1.5	23.8	20.1	36.3	18.3
	ふたり親	8,779	0.5	9.6	15.0	57.4	17.5

(2) 進学段階についてそう考える理由

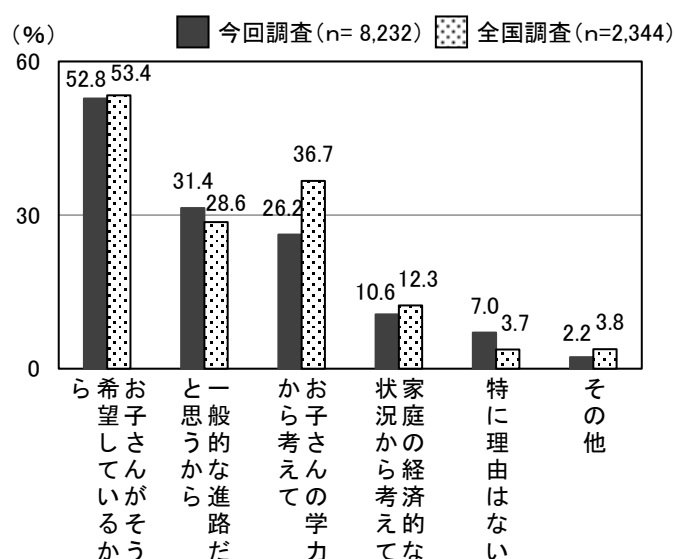
Q18. で選択肢1～4と答えた理由は何ですか。

(あてはまるものすべてにチェック) (Q19)

子どもの進学段階について、そう考える理由は「お子さんがそう希望しているから」が52.8%と最も多い。次いで「一般的な進路だと思うから」が31.4%、「お子さんの学力から考えて」が26.2%、「家庭の経済的な状況から考えて」が10.6%となっている。

全国調査と比べると、「お子さんの学力から考えて」が今回調査の方が10.5ポイント低く、「一般的な進路だと思うから」や「特に理由はない」などがやや高くなっている。

図表3-15 進学段階についてそう考える理由〔全体〕(全国調査比較)



世帯収入別でみると、300万円未満では「家庭の経済的な状況から考えて」が27.5%と他の世帯に比べて高くなっている。

世帯類型別でみると、ひとり親等では「家庭の経済的な状況から考えて」(23.8%)がふたり親(8.8%)に比べて15ポイント高い。

図表3-16 進学についてそう考える理由

〔全体、世帯収入別、世帯類型別〕

		標本数	希望しているから	一般的な進路だと思うから	お子さんの学力から考えて	家庭の経済的な状況から考えて	特に理由はない	その他
全体		8,232 100.0	4,344 52.8	2,581 31.4	2,160 26.2	871 10.6	573 7.0	178 2.2
世帯収入別	300万円未満	1,083	47.3	20.2	24.2	27.5	5.7	3.3
	300万～600万円未満	2,609	50.9	26.8	25.1	11.7	8.2	2.0
	600万円以上	4,540	55.2	36.6	27.4	5.9	6.6	2.0
世帯類型別	ひとり親等	985	50.4	21.6	23.9	23.8	5.4	3.6
	ふたり親	7,247	53.1	32.7	26.6	8.8	7.2	2.0

15. 子どもの居場所について

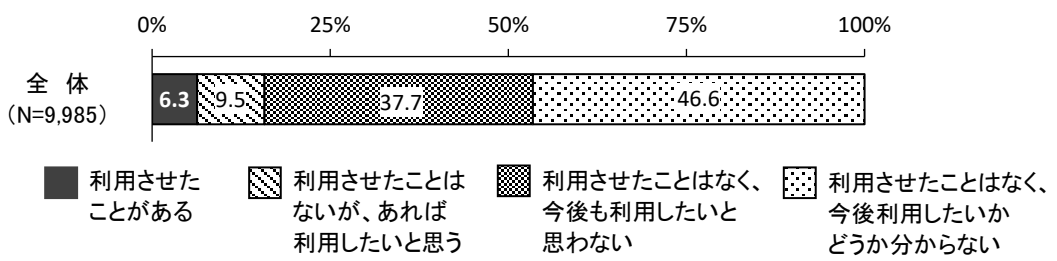
(1) (自分や友人の家以外で) 平日の夜や休日を過ごすことができる場所の利用状況・利用意向

お子さんに、次のような場所を利用させたことがありますか。

a. (自分や友人の家以外で) 平日の夜や休日を過ごすことができる場所 (Q20)

子どもに (自分や友人の家以外で) 平日の夜や休日を過ごすことができる場所を「利用させたことがある」は 6.3%である。「利用させたことはないが、あれば利用したいと思う」は 9.5%、「利用させたことはなく、今後も利用したいと思わない」は 37.7%、「利用させたことはなく、今後利用したいかどうか分からない」は 46.6%となっている。

図表 3-17 (自分や友人の家以外で) 平日の夜や休日を過ごすことができる場所の利用状況・利用意向 [全体]



世帯収入別でみると、「利用させたことがある」は 300 万円未満で 8.7%、300 万～600 万円未満で 6.4%、600 万円以上で 5.6%となっている。「利用させたことはないが、あれば利用したいと思う」は、それぞれ 14.5%、10.0%、7.8%である。

世帯類型別でみると、「利用させたことがある」はひとり親等では 8.6%、ふたり親では 5.9%となっており、「利用させたことはないが、あれば利用したいと思う」はそれぞれ 14.4%、8.8%である。

図表 3-18 (自分や友人の家以外で) 平日の夜や休日を過ごすことができる場所の利用状況・利用意向 [全体、世帯収入別、世帯類型別]

		標本数	が利用 させた こと	思えば利用 したいが できなかった	わ利用は ないが 利用したい と今後は 思わない	か利用は 分らない かたくな い、せ なかな い、後 う利
全 体		9,985 100.0	626 6.3	947 9.5	3,762 37.7	4,650 46.6
収 入 世 帯 別	300万円未満	1,396	8.7	14.5	31.9	44.9
	300万～600万円未満	3,317	6.4	10.0	36.0	47.6
	600万円以上	5,272	5.6	7.8	40.3	46.4
別 類 世 帯	ひとり親等	1,206	8.6	14.4	32.9	44.0
	ふたり親	8,779	5.9	8.8	38.3	46.9

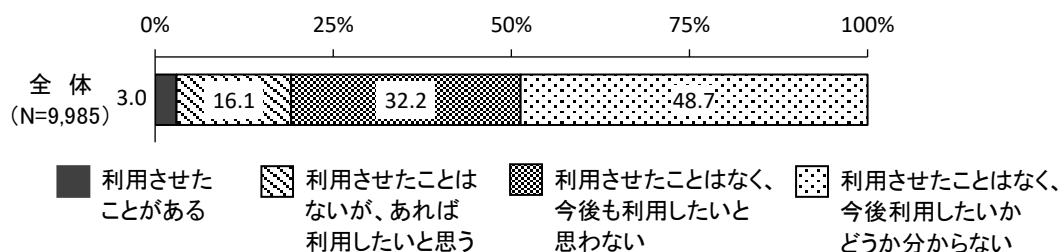
(2) (自分や友人の家以外で) ご飯を無料か安く食べることができる場所 (子ども食堂など)
の利用状況・利用意向

お子さんに、次のような場所を利用させたことがありますか。

b. (自分や友人の家以外で) ご飯を無料か安く食べることができる場所
(子ども食堂など) (Q20)

子どもに(自分や友人の家以外で) ご飯を無料か安く食べることができる場所(子ども食堂など)を「利用させたことがある」は3.0%である。「利用させたことはないが、あれば利用したいと思う」は16.1%、「利用させたことはなく、今後も利用したいと思わない」は32.2%、「利用させたことはなく、今後利用したいかどうか分からない」は48.7%となっている。

図表3-19 (自分や友人の家以外で) ご飯を無料か安く食べることができる場所
(子ども食堂など) の利用状況・利用意向 [全体]



世帯収入別でみると、「利用させたことがある」は300万円未満で5.2%、300万～600万円未満で3.5%、600万円以上で2.1%となっている。「利用させたことはないが、あれば利用したいと思う」は、それぞれ30.1%、18.1%、11.2%である。

世帯類型別でみると、「利用させたことがある」はひとり親等では4.1%、ふたり親では2.8%となっており、「利用させたことはないが、あれば利用したいと思う」はそれぞれ29.2%、14.3%である。

図表3-20 (自分や友人の家以外で) ご飯を無料か安く食べることができる場所
(子ども食堂など) の利用状況・利用意向 [全体、世帯収入別、世帯類型別]

							(%)
		標 本 数	が 利 用 さ せ た こ と	思 ば は 利 う 利 な 用 い さ し が せ た い あ と れ	利 用 さ せ た こ と	利 用 さ せ た こ と	利 用 さ せ た こ と
全 体		9,985 100.0	297 3.0	1,611 16.1	3,216 32.2	4,861 48.7	
収 入 別	300万円未満	1,396	5.2	30.1	20.7	44.1	
	300万～600万円未満	3,317	3.5	18.1	27.6	50.9	
	600万円以上	5,272	2.1	11.2	38.2	48.5	
別 類 型 別	ひとり親等	1,206	4.1	29.2	23.1	43.5	
	ふたり親	8,779	2.8	14.3	33.5	49.4	

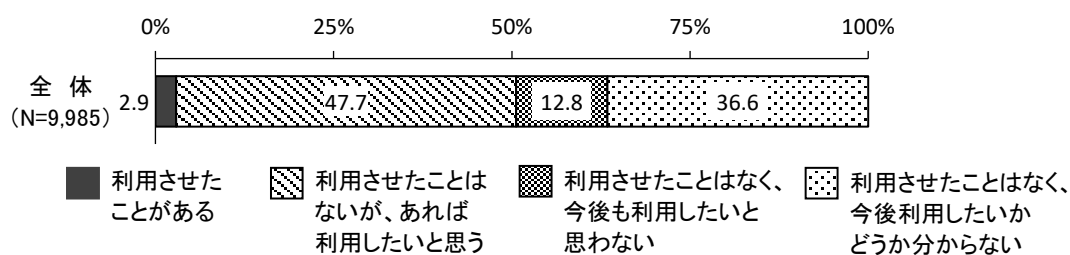
(3) 勉強を無料でみてる場所の利用状況・利用意向

お子さんに、次のような場所を利用させたことがありますか。

c. 勉強を無料でみてる場所（Q20）

子どもに勉強を無料でみてる場所を「利用させたことがある」は2.9%である。「利用させたことはないが、あれば利用したいと思う」は47.7%、「利用させたことはなく、今後も利用したいと思う」は12.8%、「利用させたことはなく、今後利用したいかどうか分からない」は36.6%となっている。

図表3-21 勉強を無料でみてる場所の利用状況・利用意向 [全体]



世帯収入別でみると、「利用させたことがある」は300万円未満で4.2%、300万～600万円未満で3.3%、600万円以上で2.2%となっている。「利用させたことはないが、あれば利用したいと思う」は、それぞれ63.3%、55.3%、38.9%である。

世帯類型別でみると、「利用させたことがある」はひとり親等では4.0%、ふたり親では2.7%となっており、「利用させたことはないが、あれば利用したいと思う」はそれぞれ59.9%、46.1%である。

図表3-22 勉強を無料でみてる場所の利用状況・利用意向 [全体、世帯収入別、世帯類型別]

							(%)
		標 本 数	が 利 用 さ せ た こ と	思 は は 利 用 さ せ た こ と	利 用 さ せ た こ と	利 用 さ せ た こ と	利 用 さ せ た こ と
全 体		9,985 100.0	285 2.9	4,767 47.7	1,280 12.8	3,653 36.6	
世帯 収入 別	300万円未満	1,396	4.2	63.3	7.2	25.2	
	300万～600万円未満	3,317	3.3	55.3	8.6	32.9	
	600万円以上	5,272	2.2	38.9	16.9	41.9	
世帯 類型 別	ひとり親等	1,206	4.0	59.9	8.6	27.5	
	ふたり親	8,779	2.7	46.1	13.4	37.8	

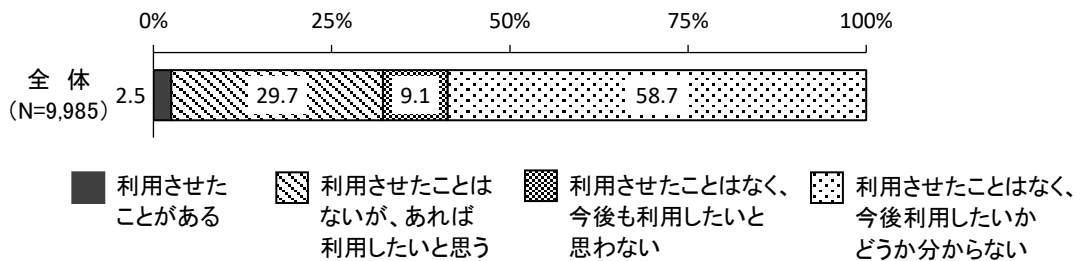
(4) (家や学校以外で) 何でも相談できる場所(電話やネットの相談を含む)の利用状況・
利用意向

お子さんに、次のような場所を利用させたことがありますか。

d. (家や学校以外で) 何でも相談できる場所(電話やネットの相談を含む)(Q20)

子どもに(家や学校以外で)何でも相談できる場所(電話やネットの相談を含む)を「利用させたことがある」は2.5%である。「利用させたことはないが、あれば利用したいと思う」は29.7%、「利用させたことはなく、今後も利用したいと思わない」は9.1%、「利用させたことはなく、今後利用したいかどうか分からない」は58.7%となっている。

図表3-23 (家や学校以外で) 何でも相談できる場所(電話やネットの相談を含む)の
利用状況・利用意向[全体]



世帯収入別でみると、「利用させたことがある」は300万円未満で4.7%、300万～600万円未満で2.4%、600万円以上で2.0%となっている。「利用させたことはないが、あれば利用したいと思う」は、それぞれ35.5%、30.6%、27.6%である。

世帯類型別でみると、「利用させたことがある」はひとり親等では4.9%、ふたり親では2.2%となっており、「利用させたことはないが、あれば利用したいと思う」はそれぞれ34.4%、29.1%である。

図表3-24 (家や学校以外で) 何でも相談できる場所(電話やネットの相談を含む)の
利用状況・利用意向[全体、世帯収入別、世帯類型別]

		標本数	が利用 させた こと	思はは利 う利な用 用いさ しがせ た、た いあこ とれと	わ利は利 な用な用 いしくさ いた、せ い今た と後こ 思もと	か用は利 分しな用 かたくさ らい、せ なか今た いど後こ う利と
全 体		9,985	252	2,966	905	5,862
		100.0	2.5	29.7	9.1	58.7
収 入 別	300万円未満	1,396	4.7	35.5	9.0	50.9
	300万～600万円未満	3,317	2.4	30.6	8.5	58.4
	600万円以上	5,272	2.0	27.6	9.4	60.9
別 類 型 別	ひとり親等	1,206	4.9	34.4	9.0	51.7
	ふたり親	8,779	2.2	29.1	9.1	59.7

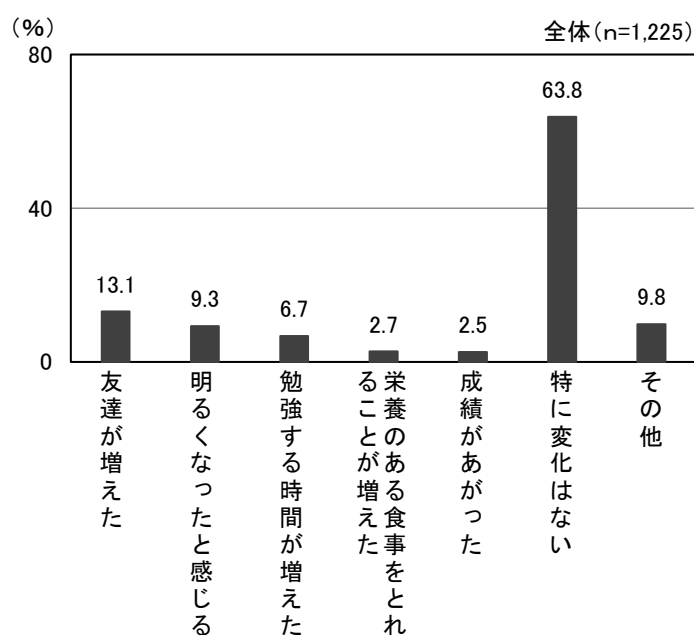
(5) 子どもの居場所を利用しての子どもの変化

Q20. で1つでも「利用させたことがある」と答えた方にお聞きます。

そこを利用したことで、お子さんに以下のような変化がありましたか。(あてはまるものすべてにチェック) (Q21)

子どもの居場所を1つでも利用させたことで子どもに起こった変化は、「特に変化はない」が63.8%と最も多いが、変化として「友達が増えた」(13.1%)、「明るくなったと感じる」(9.3%)、「勉強する時間が増えた」(6.7%)などがあげられている。

図表3-25 子どもの居場所を利用しての子どもの変化 [全体]



世帯収入別でみると、いずれの世帯収入でも「特に変化はない」が6割を超えているが、300万円未満では「明るくなったと感じる」が15.4%と高く、また「栄養のある食事をとれることが増えた」(5.7%)も他の世帯収入に比べて高い。

世帯類型別でみると、ひとり親等では「特に変化はない」が67.9%でふたり親(63.0%)よりも高い、「栄養のある食事をとれることが増えた」や「成績があがった」は割合が低い、ふたり親よりやや高くなっている。

図表3-26 子どもの居場所を利用しての子どもの変化〔全体、世帯収入別、世帯類型別〕

(%)

		標 本 数	友 達 が 増 え た	明 る く な っ た と 感 じ る	勉 強 す る 時 間 が 増 え た	栄 養 の あ る 食 事 を と れ る こ と が 増 え た	成 績 が あ が っ た	特 に 変 化 は な い	そ の 他
全 体		1,225 100.0	161 13.1	114 9.3	82 6.7	33 2.7	31 2.5	782 63.8	120 9.8
収 入 別 世 帯	300万円未満	247	12.1	15.4	5.7	5.7	2.8	61.1	9.3
	300万～600万円未満	438	12.8	7.5	5.9	3.2	2.1	65.8	9.4
	600万円以上	540	13.9	8.0	7.8	0.9	2.8	63.5	10.4
別 類 世 帯	ひとり親等	212	10.4	9.0	4.2	4.2	3.3	67.9	11.8
	ふたり親	1,013	13.7	9.4	7.2	2.4	2.4	63.0	9.4

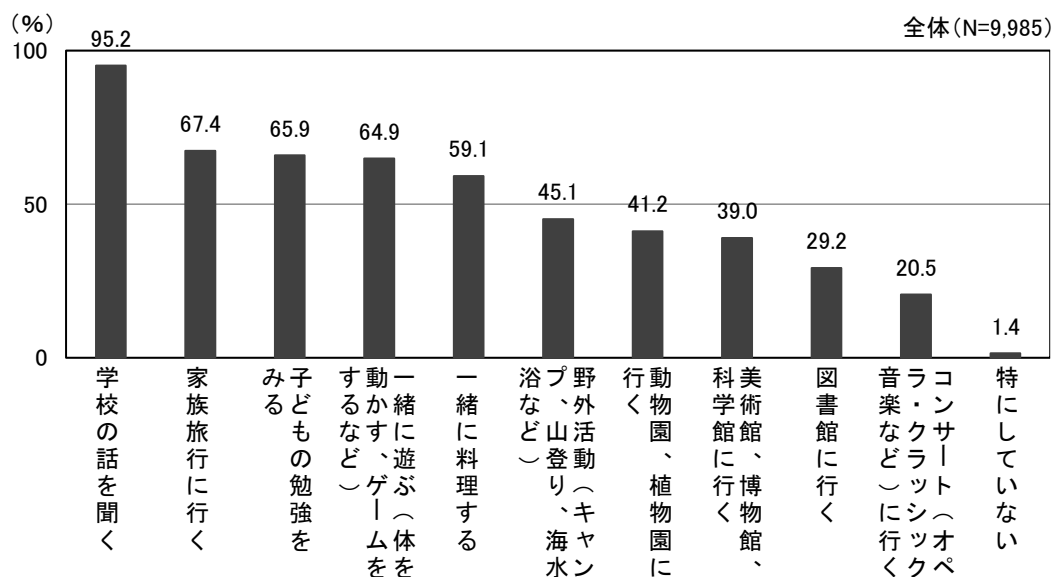
第4章 家庭の状況

16. 家庭で子どもと行うこと

あなたのご家庭では、お子さんと次のようなことをしたり、行ったりすることがありますか。
(あてはまるものすべてにチェック) (Q22)

子どもと一緒に体験したり行ったりすることについて、「学校の話聞く」が95.2%で最も多い。次いで「家族旅行に行く」が67.4%、「子どもの勉強をみる」が65.9%、「一緒に遊ぶ(体を動かす、ゲームをするなど)」が64.9%、「一緒に料理する」が59.1%などとなっている。

図表4-1 家庭で子どもと行うこと [全体]



世帯収入別でみると、一緒に体験したり、行ったりするものはいずれも収入が高い世帯ほど割合が高くなっており、「家族旅行に行く」「野外活動（キャンプ、山登り、海水浴など）」「子どもの勉強をみる」などでは600万円以上と300万円未満で約21～36ポイントの差がある

世帯類型別でみると、一緒に体験したり、行ったりするものはいずれもふたり親の方が割合は高く、「家族旅行に行く」「子どもの勉強をみる」などではひとり親等とは21～23ポイントの差がある。

子どもの学年別でみると、小学6年生では「学校の話聞く」（96.2%）や「子どもの勉強をみる」（76.5%）、「一緒に遊ぶ（体を動かす、ゲームをするなど）」（74.1%）、「家族旅行に行く」（72.3%）、「一緒に料理する」（66.8%）など5割を超える項目が多い。中学3年生では「学校の話聞く」（94.0%）や「家族旅行に行く」（61.0%）、「一緒に遊ぶ（体を動かす、ゲームをするなど）」（52.9%）、「子どもの勉強をみる」（52.1%）などが5割を超えている。

図表4-2 家庭で子どもと行うこと〔全体、世帯収入別、世帯類型別、子どもの学年別〕

		標本数	学校の話聞く	家族旅行に行く	子どもの勉強をみる	一緒に遊ぶ（体を動かす、ゲームをするなど）	一緒に料理する	野外活動（キャンプ、山登り、海水浴など）	動物園、植物園に行く	美術館、博物館、科学館に行く	図書館に行く	コンサート（音楽など）に行く	特にしていない
全 体		9,985 100.0	9,509 95.2	6,727 67.4	6,581 65.9	6,481 64.9	5,904 59.1	4,500 45.1	4,118 41.2	3,894 39.0	2,914 29.2	2,044 20.5	144 1.4
収入世帯別	300万円未満	1,396	90.5	42.5	50.1	54.2	53.3	30.1	34.0	26.4	18.6	14.5	4.6
	300万～600万円未満	3,317	95.0	60.4	63.2	64.3	56.7	41.6	40.5	34.6	25.7	17.2	1.4
	600万円以上	5,272	96.6	78.3	71.8	68.1	62.2	51.2	43.6	45.1	34.2	24.1	0.6
世帯類型別	ひとり親等	1,206	91.0	47.0	47.2	53.1	54.1	29.0	31.8	27.7	18.9	17.2	4.3
	ふたり親	8,779	95.8	70.2	68.5	66.5	59.8	47.3	42.5	40.6	30.6	20.9	1.0
子ども学年別	小学6年生	5,652	96.2	72.3	76.5	74.1	66.8	52.4	51.4	46.1	34.5	20.6	0.8
	中学3年生	4,333	94.0	61.0	52.1	52.9	49.1	35.5	28.0	29.7	22.2	20.3	2.2

17. 学校行事への参加

(1) 授業参観や運動会などの学校行事への参加

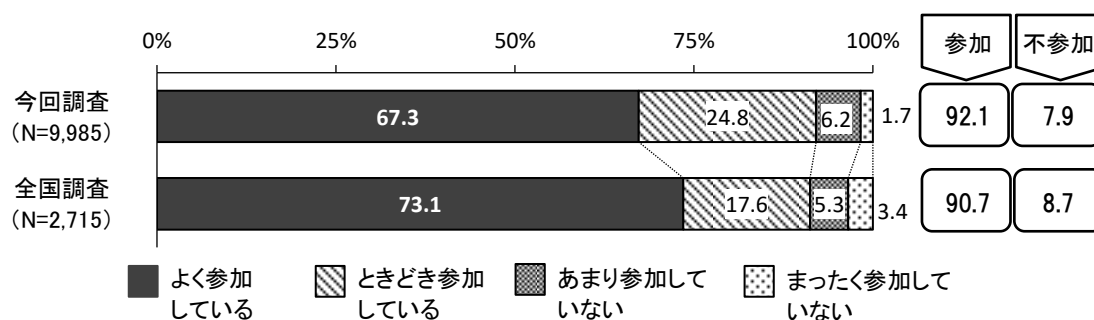
あなたは次のようなこと（学校行事等への参加）をどの程度していますか。

a. 授業参観や運動会などの学校行事（Q23）

授業参観や運動会などの学校行事への参加について、「よく参加している」が 67.3%と最も多く、次いで「ときどき参加している」が 24.8%でこれらをあわせた『参加』は 92.1%となっている。他方、「まったく参加していない」(1.7%)と「あまり参加していない」(6.2%)をあわせた『不参加』は 7.9%である。

全国調査と比べると、「よく参加している」は今回調査の方が 5.8 ポイント低い、「ときどき参加している」は 7.2 ポイント高く、『参加』の割合は今回調査の方がやや高い。

図表 4-3 授業参観や運動会などの学校行事への参加〔全体〕（全国調査比較）



世帯収入別でみると、『参加』は 600 万円以上では 94.7%、300 万～600 万円未満では 92.0%、300 万円未満では 82.7%となっている。

世帯類型別でみると、『参加』はふたり親では 93.8%、ひとり親等では 80.1%となっており、そのうち「よく参加している」はふたり親では 70.2%、ひとり親等では 46.4%となっている。

図表 4-4 授業参観や運動会などの学校行事への参加〔全体、世帯収入別、世帯類型別〕

		標本数	よく参加している	ときどき参加している	あまり参加していない	まったく参加していない	参加 (%)	不参加 (%)
全 体		9,985	6,719	2,477	615	174	92.1	7.9
収入世帯別	300万円未満	1,396	51.6	31.1	12.0	5.2	82.7	17.2
	300万～600万円未満	3,317	66.6	25.4	6.5	1.5	92.0	8.0
	600万円以上	5,272	71.9	22.8	4.4	0.9	94.7	5.3
別類型世帯	ひとり親等	1,206	46.4	33.7	14.0	6.0	80.1	20.0
	ふたり親	8,779	70.2	23.6	5.1	1.2	93.8	6.3

(2) P T A活動や保護者会、放課後学習支援等のボランティアなどへの参加

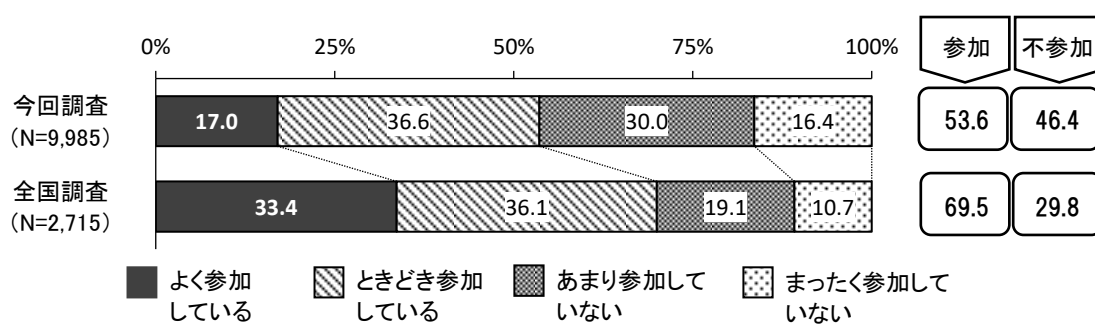
あなたは次のようなこと（学校行事等への参加）をどの程度していますか。

b. P T A活動や保護者会、放課後学習支援等のボランティアなど（Q23）

P T A活動や保護者会、放課後学習支援等のボランティアなどへの参加について、「ときどき参加している」が 36.6%と最も多く、「よく参加している」（17.0%）をあわせた『参加』は 53.6%となっている。他方、「まったく参加していない」（16.4%）と「あまり参加していない」（30.0%）をあわせた『不参加』は 46.4%である。

全国調査と比べると、『不参加』の割合は今回調査の方が 16.6 ポイント高い。

図表 4－5 P T A活動や保護者会、放課後学習支援等のボランティアなどへの参加
[全体]（全国調査比較）



※全国調査では「不明・無回答」0.7%あり

世帯収入別でみると、『参加』は 600 万円以上では 59.2%、300 万～600 万円未満では 51.2%、300 万円未満では 38.2%となっている。

世帯類型別でみると、『参加』はふたり親では 56.3%に対し、ひとり親等では 34.2%となっている。

図表 4－6 P T A活動や保護者会、放課後学習支援等のボランティアなどへの参加
[全体、世帯収入別、世帯類型別]

		標本数	よく参加している	ときどき参加している	あまり参加していない	まったく参加していない	参加 (%)	不参加 (%)
全 体		9,985 100.0	1,699 17.0	3,653 36.6	2,998 30.0	1,635 16.4	53.6	46.4
収 入 世 帯 別	300万円未満	1,396	11.7	26.5	31.7	30.2	38.2	61.9
	300万～600万円未満	3,317	15.8	35.4	31.8	17.0	51.2	48.8
	600万円以上	5,272	19.2	40.0	28.5	12.3	59.2	40.8
別 類 世 帯 型 別	ひとり親等	1,206	10.0	24.2	31.7	34.2	34.2	65.9
	ふたり親	8,779	18.0	38.3	29.8	13.9	56.3	43.7

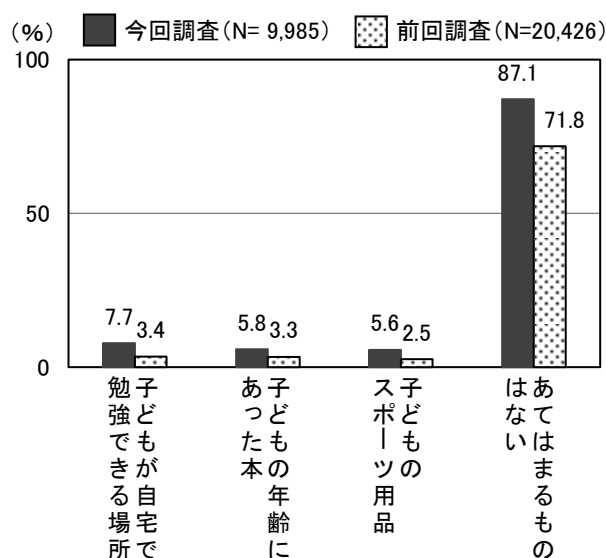
18. 経済的理由のために世帯にないもの

次のもののうち、経済的理由のためにあなたの世帯にないものがありますか。（あてはまるものすべてにチェック）（Q7）

経済的な理由で世帯にないものは「あてはまるものはない」が 87.1%と最も多い。該当するものとしては「子どもが自宅で勉強できる場所」が 7.7%、「子どもの年齢にあった本」が 5.8%、「子どものスポーツ用品」が 5.6%である。

前回調査とは項目が違うため正確な比較はできないが、今回調査と同じ項目である「子どもが自宅で勉強できる場所」「子どもの年齢にあった本」「子どものスポーツ用品」はそれぞれ約 3～4 ポイント割合が増えている。

図表 4－7 経済的理由のために世帯にないもの〔全体〕（前回調査比較）



世帯収入別でみると、世帯収入が低い世帯ほど「あてはまるものはない」の割合が低くなっており、300 万円未満では 58.5%である。該当する項目はいずれも 300 万円未満では 2 割を超えている。前回調査に比べ、いずれの世帯収入でも該当する項目の割合は増えているが、特に 300 万円未満では 10 ポイント以上増えている。

世帯類型別でみると、ひとり親等では「あてはまるものはない」は 62.0%とふたり親（90.6%）よりも 28.6 ポイント低い。ひとり親等では「子どもの年齢にあった本」（18.0%）、「子どものスポーツ用品」（18.2%）が 2 割弱、「子どもが自宅で勉強できる場所」が 23.1%とふたり親よりも約 14～18 ポイント高い。前回調査に比べ、ひとり親等では該当する項目の割合がいずれも 10 ポイント前後高くなっている。

子どもの学年別でみると、「あてはまるものはない」は小学 6 年生では 87.5%、中学 3 年生では 86.6%となっている。また、それぞれ該当する項目の割合は 1 割未満である。

図表 4－8 経済的理由のために世帯にないもの
〔全体、世帯収入別、世帯類型別、子どもの学年別〕（前回調査比較）

		標 本 数	に 子 あ ど つ も た の 本 年 齢	ポ 子 ー ど ツ も 用 の 品 ス	場 で 子 所 勉 ど 強 も で が 自 宅	の あ は て な は い ま る も
今回調査		9,985 100.0	583 5.8	561 5.6	768 7.7	8,701 87.1
収 入 世 帯 別	300万円未満	1,396	20.6	21.4	24.6	58.5
	300万～600万円未満	3,317	6.4	6.0	9.2	84.7
	600万円以上	5,272	1.6	1.2	2.3	96.3
別 類 型 世 帯	ひとり親等	1,206	18.0	18.2	23.1	62.0
	ふたり親	8,779	4.2	3.9	5.6	90.6
別 学 も 子 年 の ど	小学6年生	5,652	5.8	6.1	7.2	87.5
	中学3年生	4,333	5.9	5.0	8.4	86.6
前回調査		20,426 100.0	676 3.3	504 2.5	688 3.4	14,660 71.8
収 入 世 帯 別	300万円未満	3,252	9.8	8.4	10.9	40.1
	300万～600万円未満	7,104	3.3	2.0	3.1	69.6
	600万円以上	9,126	0.9	0.5	0.8	85.5
別 類 型 世 帯	ひとり親等	3,015	8.6	7.5	9.0	44.6
	ふたり親	17,353	2.4	1.6	2.4	76.6

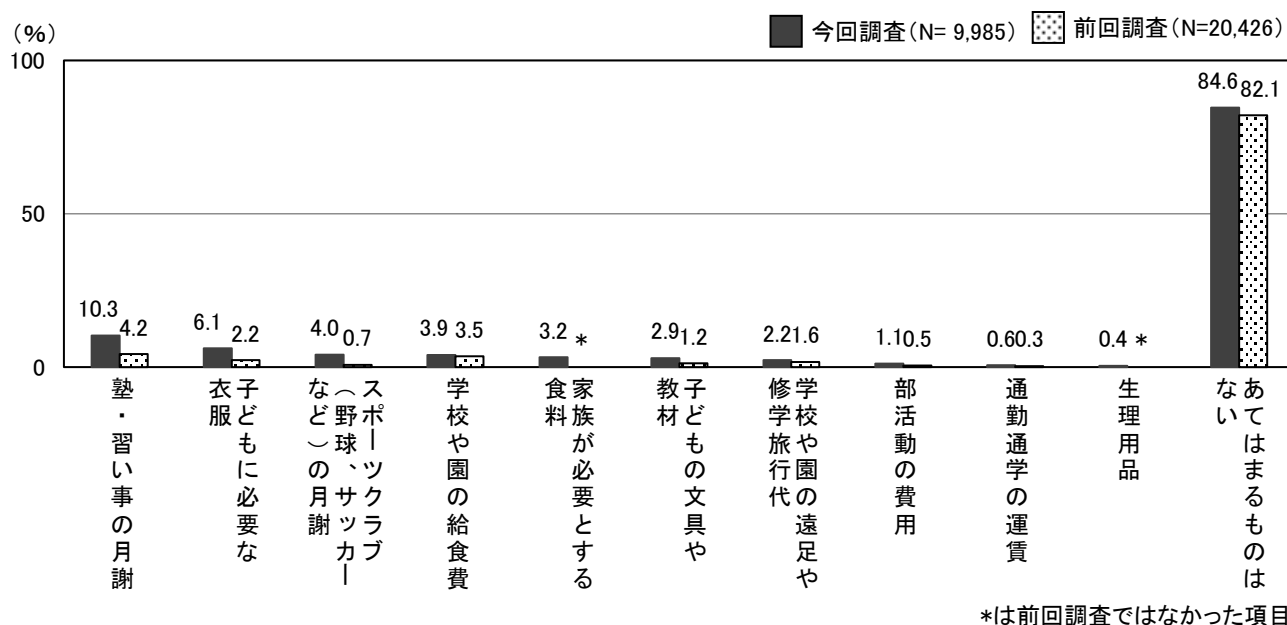
19. 経済的理由のために支払いができなかったもの

次の費用のうち、経済的理由のために支払いができなかったものがありますか。（あてはまるものすべてにチェック）（Q8）

経済的理由のため支払いができなかったものについては、「あてはまるものはない」が84.6%と最も多い。該当するものとしては「塾・習い事の月謝」が10.3%、「子どもに必要な衣服」が6.1%、「スポーツクラブ（野球、サッカーなど）の月謝」が4.0%などとなっている。

前回調査とは項目が違いため正確な比較はできないが、「塾・習い事の月謝」が6.1ポイント、「子どもに必要な衣服」が3.9ポイント、「スポーツクラブ（野球、サッカーなど）の月謝」が3.3ポイント増えている。

図表4－9 経済的理由のために支払いができなかったもの〔全体〕（前回調査比較）



世帯収入別でみると、収入が低い世帯ほど「あてはまるものはない」の割合が低く、300万円未満では50.1%である。該当する項目はいずれも300万円未満で割合が高く、特に「塾・習い事の月謝」が33.8%、「子どもに必要な衣服」が22.9%、「スポーツクラブ（野球、サッカーなど）の月謝」が15.1%、「家族が必要とする食料」が14.0%など1割を超える項目が多い。

世帯類型別でみると、ひとり親等では「あてはまるものはない」は56.2%とふたり親（88.5%）よりも32.3ポイント低い。ひとり親等では「塾・習い事の月謝」が30.7%、「子どもに必要な衣服」が21.5%、「スポーツクラブ（野球、サッカーなど）の月謝」が13.3%、「家族が必要とする食料」が11.8%、「子どもの文具や教材」が10.3%と1割を超えて高い。

子どもの学年別でみると、「あてはまるものはない」は小学6年生では85.6%、中学3年生では83.2%となっている。中学3年生では「塾・習い事の月謝」が11.4%と1割を超えて高い。

図表4-10 経済的理由のために支払いができなかったもの

[全体、世帯収入別、世帯類型別、子どもの学年別]

												(%)		
		標 本 数	塾・ 習い 事の 月謝	子 ども に 必要 な 衣 服	な ど （ 野 球 、 サ ッ カ ー ） の 月 謝	ス ポ ー ツ ク ラ ブ の 給 食 費	学 校 や 園 の 給 食 費	食 料 が 必要 と する	材 子 ども の 文 具 や 教	修 学 旅 行 代 の 遠 足 や	部 活 動 の 費 用	通 勤 通 学 の 運 賃	生 理 用 品	な あ て は ま る も の は な い
全 体		9,985 100.0	1,033 10.3	608 6.1	404 4.0	388 3.9	324 3.2	288 2.9	222 2.2	109 1.1	64 0.6	36 0.4	8,445 84.6	
収 入 世 帯 別	300万円未満	1,396	33.8	22.9	15.1	13.3	14.0	12.6	10.6	4.7	2.3	2.0	50.1	
	300万～600万円未満	3,317	12.5	6.5	4.4	4.9	3.0	2.5	2.0	1.1	0.6	0.2	81.2	
	600万円以上	5,272	2.8	1.4	0.9	0.7	0.6	0.5	0.2	0.1	0.2	0.0	95.8	
別 類 世 帯	ひとり親等	1,206	30.7	21.5	13.3	8.5	11.8	10.3	7.8	4.2	2.2	1.4	56.2	
	ふたり親	8,779	7.6	4.0	2.8	3.3	2.1	1.9	1.5	0.7	0.4	0.2	88.5	
別 学 も 子 年 の ど	小学6年生	5,652	9.5	5.5	4.3	3.9	3.1	2.7	1.9	0.5	0.4	0.3	85.6	
	中学3年生	4,333	11.4	6.9	3.7	3.9	3.4	3.1	2.6	1.8	0.9	0.5	83.2	

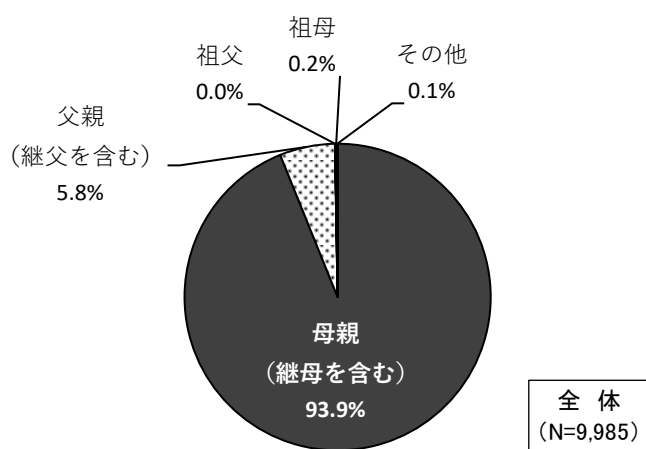
第5章 子どもや家庭に関する相談など

20. アンケート回答者

お子さんとあなたとの関係は、次のどれにあたりますか。お子さんからみた続柄でお答えください。（Q6）

調査に回答してくれた人は「母親（継母を含む）」が93.9%と最も多い。「父親（継父を含む）」は5.8%である。

図表5－1 アンケートの回答者〔全体〕



21. 子どもや家庭に関する相談相手

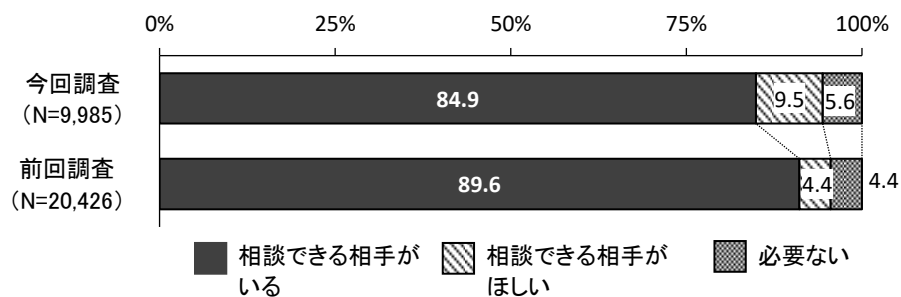
(1) 子どもや家庭のことで相談できる相手の有無

あなたは、現在、子どもや家庭のことで、相談できる相手がありますか。(Q24)

子どもや家庭のことで「相談できる相手がいる」が84.9%と最も多く、「相談できる相手がほしい」は9.5%、「必要ない」は5.6%である。

前回調査と比べると、「相談できる相手がいる」は今回調査の方が4.7ポイント低く、「相談できる相手がほしい」が5.1ポイント高くなっている。

図表5-2 子どもや家庭のことで相談できる相手の有無〔全体〕(前回調査比較)



※前回調査では「無回答」1.6%あり

世帯収入別でみると、「相談できる相手がいる」は300万円未満で75.4%と他の世帯に比べて低く、「相談できる相手がほしい」(16.3%)が他の世帯に比べて高くなっている。前回調査に比べ、いずれの世帯収入でも「相談できる相手がいる」の割合は減っており、特に300万円未満では8.8ポイント減り、「相談できる相手がほしい」が8.4ポイント増えている。

世帯類型別でみると、「相談できる相手がいる」はひとり親等では74.5%であり、ふたり親(86.3%)に比べて11.8ポイント低く、「相談できる相手がほしい」は、ひとり親等では17.6%であり、ふたり親(8.4%)に比べて9.2ポイント高い。前回調査に比べ、いずれの世帯類型でも「相談できる相手がいる」が約5～7ポイント減り、「相談できる相手がほしい」が約5～9ポイント増えている。

回答者別でみると、「相談できる相手がいる」は母親では86.5%であり、父親(60.0%)に比べて26.5ポイント高く、父親では「相談できる相手がほしい」(17.3%)や「必要ない」(22.6%)が母親よりも高い。

図表5-3 子どもや家庭のことで相談できる相手の有無
[全体、世帯収入別、世帯類型別、回答者別] (前回調査比較)

		(%)				
		標本数	いる相談相手でき	ほる相談相手でき	必要ない	無回答
今回調査		9,985 100.0	8,477 84.9	951 9.5	557 5.6	- -
収入別 世帯	300万円未満	1,396	75.4	16.3	8.3	-
	300万～600万円未満	3,317	85.0	9.8	5.1	-
	600万円以上	5,272	87.3	7.5	5.1	-
類型別	ひとり親等	1,206	74.5	17.6	8.0	-
	ふたり親	8,779	86.3	8.4	5.3	-
回答者別	母親(継母を含む)	9,374	86.5	9.0	4.5	-
	父親(継父を含む)	583	60.0	17.3	22.6	-
	祖父	2	50.0	-	50.0	-
	祖母	20	80.0	10.0	10.0	-
	その他	6	83.3	16.7	-	-
前回調査		20,426 100.0	18,302 89.6	906 4.4	889 4.4	329 4.4
収入別 世帯	300万円未満	3,252	84.2	7.9	6.2	6.2
	300万～600万円未満	7,104	89.9	4.6	4.4	4.4
	600万円以上	9,126	93.0	2.9	3.4	3.4
類型別	ひとり親等	3,015	81.2	8.9	7.6	7.6
	ふたり親	17,353	91.2	3.7	3.8	3.8

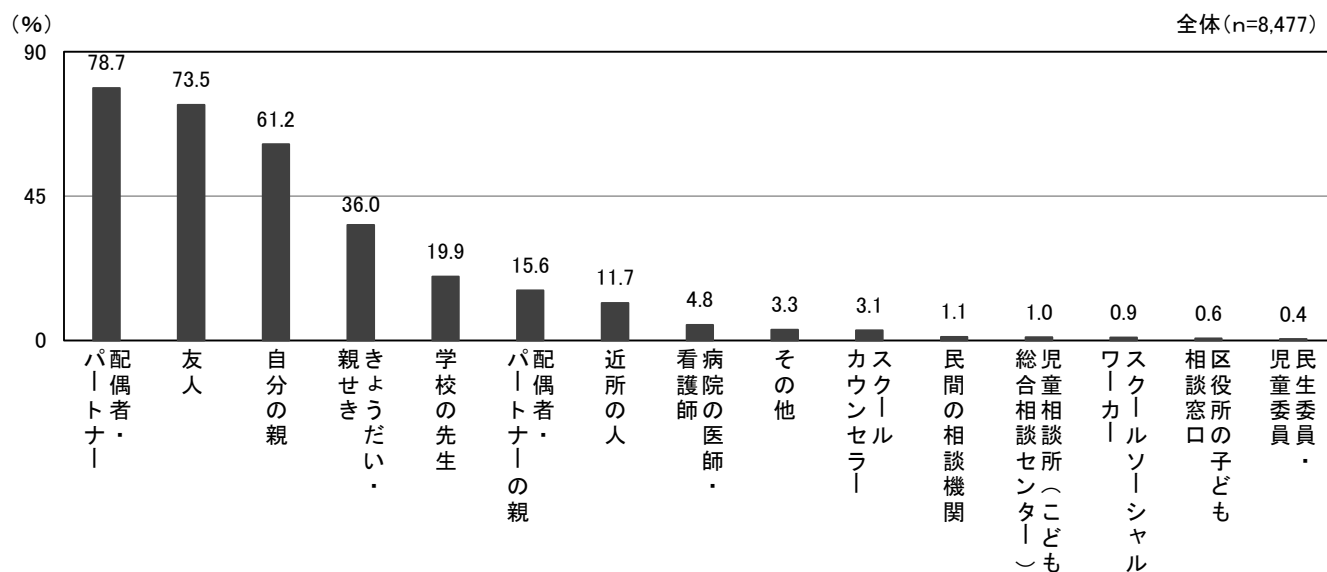
(2) 子どもや家庭のことで相談できる相手

Q24. で答えた「相談できる相手」とはどんな相手ですか。

(あてはまるものすべてにチェック) (Q25)

子どもや家庭のことで「相談できる相手がいる」と回答した人に、その相手(先)をたずねたところ、「配偶者・パートナー」が78.7%と最も多く、次いで「友人」(73.5%)、「自分の親」(61.2%)、「きょうだい・親せき」(36.0%)、「学校の先生」(19.9%)などが続いている。

図表5-4 子どもや家庭のことで相談できる相手〔全体〕



世帯収入別でみると、300 万円未満では「友人」（70.6%）、300 万円以上では「配偶者・パートナー」への相談が最も多い。また、300 万円未満では「病院の医師・看護師」「児童相談所（こども総合相談センター）」「民間の相談機関」「区役所の子ども相談窓口」「スクールソーシャルワーカー」などへの相談が比較的多くみられる。

世帯類型別でみると、ひとり親等では「児童相談所（こども総合相談センター）」「区役所の子ども相談窓口」など公的機関への相談がふたり親よりも比較的多くみられる。

回答者別でみると、母親は「友人」「自分の親」「きょうだい・親せき」への相談が父親よりも高く、父親は「配偶者・パートナー」「配偶者・パートナーの親」への相談が母親よりも高い。

図表５－５ 子どもや家庭のことで相談できる相手〔全体、世帯収入別、世帯類型別、回答者別〕

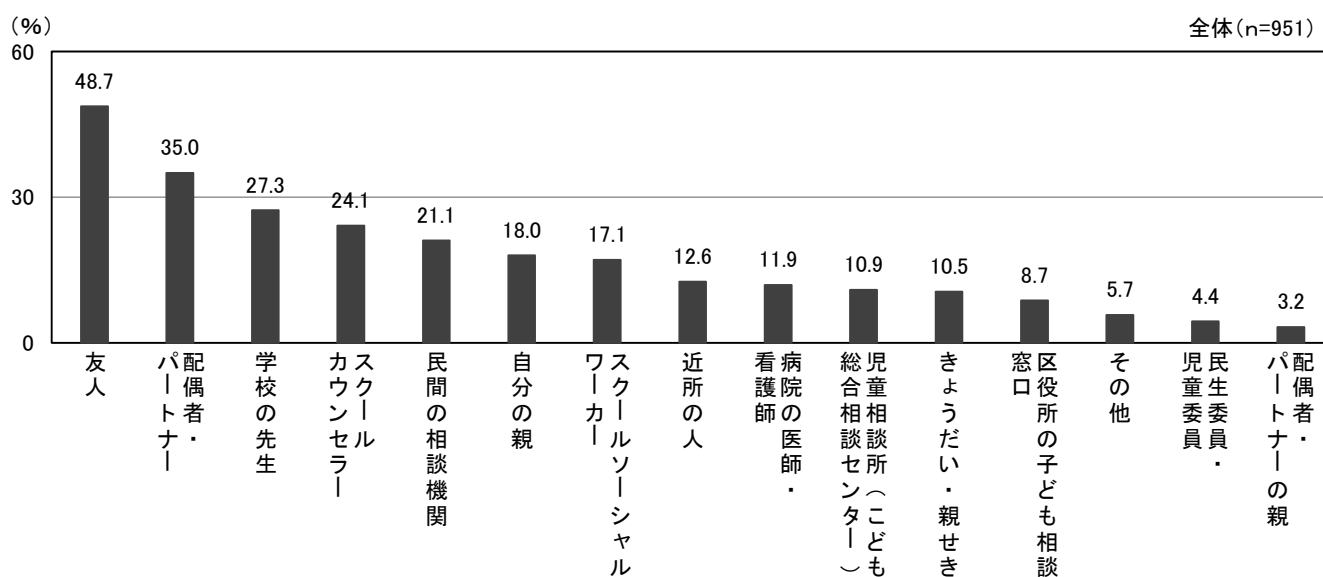
		標本数	配偶者・パートナー	友人	自分の親	きょうだい・親せき	学校の先生	の配偶者・パートナー	近所の人	病院の医師・看護師	スクールカウンセラー	民間の相談機関	児童相談所（こども総合相談センター）	スクールソーシャルワーカー	区役所の子ども相談窓口	民生委員・児童委員	その他
全 体		8,477 100.0	6,675 78.7	6,231 73.5	5,188 61.2	3,053 36.0	1,691 19.9	1,321 15.6	991 11.7	409 4.8	261 3.1	94 1.1	87 1.0	73 0.9	50 0.6	38 0.4	283 3.3
収入別	300万円未満	1,052	43.0	70.6	60.3	37.7	19.8	9.7	9.0	6.5	3.3	2.2	2.3	1.6	1.8	0.9	4.8
	300万～600万円未満	2,821	77.7	73.6	62.3	36.1	19.1	15.5	11.9	4.3	3.0	0.9	0.7	0.9	0.4	0.4	2.9
	600万円以上	4,604	87.5	74.1	60.8	35.6	20.5	17.0	12.1	4.8	3.0	1.0	0.9	0.7	0.5	0.4	3.2
類型別	ひとり親等	898	14.9	70.8	61.1	36.9	18.8	2.1	7.2	6.7	3.0	1.9	2.6	2.2	2.1	1.1	6.7
	ふたり親	7,579	86.3	73.8	61.2	35.9	20.1	17.2	12.2	4.6	3.1	1.0	0.8	0.7	0.4	0.4	2.9
回答者別	母親（継母を含む）	8,105	78.5	74.7	62.0	36.5	19.9	15.3	11.8	4.7	3.0	1.0	0.9	0.8	0.5	0.4	3.3
	父親（継父を含む）	350	86.3	46.0	45.1	26.3	21.7	22.0	10.0	6.0	4.6	1.7	2.0	1.4	1.4	－	3.7
	祖父	1	－	100.0	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	祖母	16	31.3	62.5	31.3	25.0	12.5	－	－	6.3	－	6.3	6.3	6.3	－	－	6.3
	その他	5	60.0	60.0	－	20.0	60.0	40.0	40.0	60.0	20.0	40.0	80.0	40.0	40.0	60.0	20.0

(3) 子どもや家庭のことを相談したい相手

Q24. で答えた「相談できる相手」にはどんな相手が欲しいですか。(あてはまるものすべてにチェック) (Q26)

子どもや家庭のことで「相談できる相手がほしい」と回答した人に、その相手(先)をたずねたところ、「友人」が48.7%と最も多く、次いで「配偶者・パートナー」(35.0%)、「学校の先生」(27.3%)、「スクールカウンセラー」(24.1%)、「民間の相談機関」(21.1%)などが続いている。また「児童相談所(こども総合相談センター)」(10.9%)や「区役所の子ども相談窓口」(8.7%)など公的機関へのニーズも1割前後みられる。

図表5-6 子どもや家庭のことを相談したい相手〔全体〕



世帯収入別でみると、300 万円未満では「病院の医師・看護師」「児童相談所（こども総合相談センター）」「自分の親」などへのニーズが他の世帯に比べて比較的高い。

世帯類型別でみると、ふたり親で「スクールカウンセラー」「民間の相談機関」へのニーズがひとり親等よりも高く、その他の項目ではあまり大差はみられない。

回答者別でみると、母親は「友人」や「自分の親」「病院の医師・看護師」などのニーズが父親よりも高い、父親は「スクールカウンセラー」や「スクールソーシャルワーカー」「学校の先生」「民間の相談機関」「民生委員・児童委員」のニーズが母親よりも高い。

図表５－７ 子どもや家庭のことを相談したい相手〔全体、世帯収入別、世帯類型別、回答者別〕

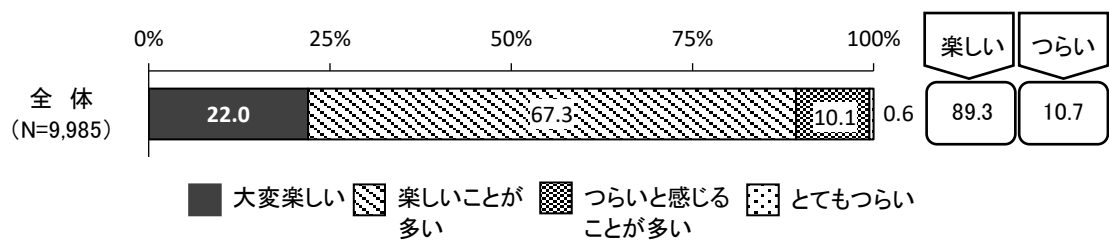
		標本数	友人	配偶者・パートナー	学校の先生	スクールカウンセラー	民間の相談機関	自分の親	スクールソーシャルワーカー	近所の人	病院の医師・看護師	児童相談所（こども総合相談センター）	きょうだい・親せき	区役所の子ども相談窓口	民生委員・児童委員	の配偶者・パートナー	その他
全 体		951 100.0	463 48.7	333 35.0	260 27.3	229 24.1	201 21.1	171 18.0	163 17.1	120 12.6	113 11.9	104 10.9	100 10.5	83 8.7	42 4.4	30 3.2	54 5.7
収入別	300万円未満	228	46.1	28.1	25.9	19.3	19.3	19.3	18.0	11.4	14.9	13.2	10.5	8.8	4.8	0.9	6.1
	300万～600万円未満	326	47.2	34.7	28.2	23.6	21.5	17.5	15.3	9.2	8.6	11.7	10.7	8.3	5.2	3.1	4.9
	600万円以上	397	51.4	39.3	27.5	27.2	21.9	17.6	18.1	16.1	12.8	9.1	10.3	9.1	3.5	4.5	6.0
類型別	ひとり親等	212	49.5	34.0	28.8	19.3	17.0	16.5	17.0	12.7	12.3	11.8	11.8	9.4	5.2	0.5	7.5
	ふたり親	739	48.4	35.3	26.9	25.4	22.3	18.4	17.2	12.6	11.8	10.7	10.1	8.5	4.2	3.9	5.1
回答者別	母親（継母を含む）	847	51.1	34.9	26.8	22.4	20.1	18.8	16.6	12.3	12.4	10.5	10.3	8.4	3.7	3.2	5.8
	父親（継父を含む）	101	28.7	35.6	31.7	37.6	28.7	11.9	21.8	15.8	6.9	13.9	12.9	11.9	10.9	3.0	4.0
	祖父	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	祖母	2	50.0	50.0	50.0	50.0	100.0	-	-	-	50.0	50.0	-	-	-	-	-
	その他	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0

22. 子育ての楽しさ

あなたは、お子さんの子育てが楽しいですか。（Q27）

子育ての楽しさについて、「大変楽しい」が 22.0%、「楽しいことが多い」が 67.3%でこれらをあわせた『楽しい』は 89.3%である。他方、「とてもつらい」は 0.6%、「つらいと感じることが多い」は 10.1%でこれらをあわせた『つらい』は 10.7%である。

図表 5－8 子育ての楽しさ [全体]



世帯収入別でみると、世帯収入が高い世帯ほど『楽しい』の割合が高く、600 万円以上では 91.6% に対し、300 万円未満では 81.4%と 10.2 ポイントの差がある。300 万円未満の『つらい』は 18.6% と 2 割近くとなっている。

世帯類型別でみると、ひとり親等の『楽しい』は 82.6%、ふたり親は 90.2%と 7.6 ポイントの差がある。ひとり親等の『つらい』は 17.4%である。

回答者別でみると、母親、父親とも『楽しい』は 9 割前後あるが、その内訳をみると「大変楽しい」は父親が 33.3%で母親（21.4%）より 11.9 ポイント高い。

図表 5－9 子育ての楽しさ [全体、世帯収入別、世帯類型別、回答者別]

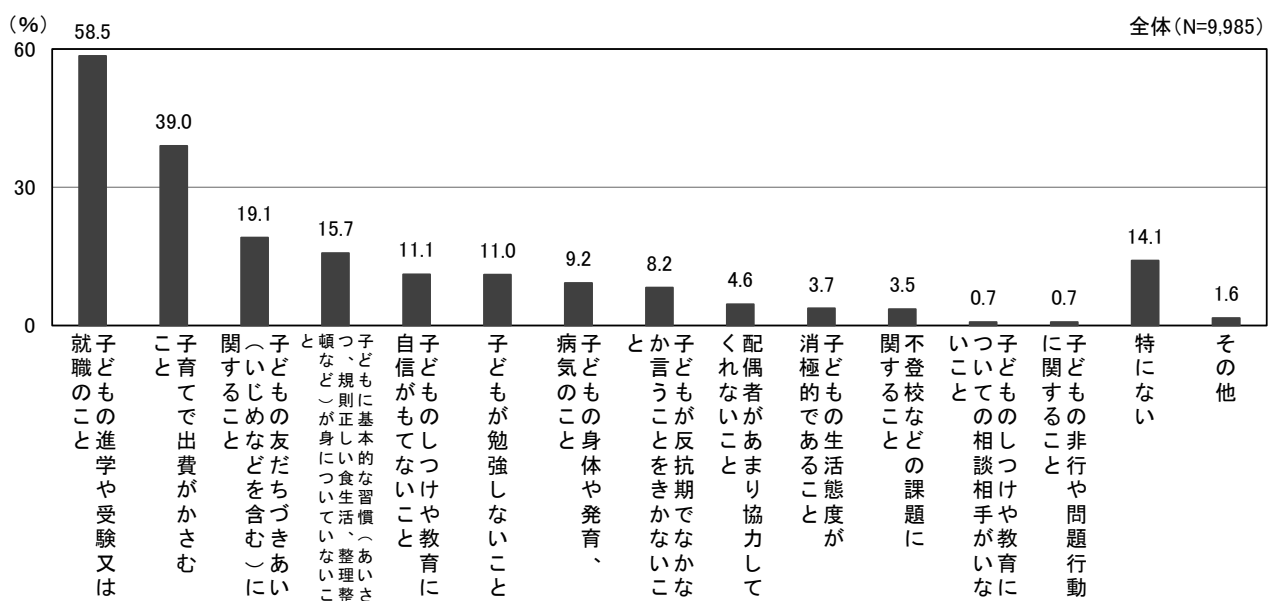
									(%)
		標 本 数	大 変 楽 し い	多 楽 し い こ と が	つ ら い と 感 じ る こ と が	と も つ ら い	楽 し い	つ ら い	
全 体		9,985 100.0	2,199 22.0	6,719 67.3	1,011 10.1	56 0.6	8,918 89.3	1,067 10.7	
収入別	世帯 300万円未満	1,396	19.1	62.3	17.2	1.4	81.4	18.6	
	300万～600万円未満	3,317	20.4	68.6	10.6	0.4	89.0	11.0	
	600万円以上	5,272	23.8	67.8	8.0	0.4	91.6	8.4	
別	類型世帯 ひとり親等	1,206	19.0	63.6	16.3	1.1	82.6	17.4	
	ふたり親	8,779	22.4	67.8	9.3	0.5	90.2	9.8	
回答者別	母親(継母を含む)	9,374	21.4	67.9	10.2	0.6	89.3	10.8	
	父親(継父を含む)	583	33.3	58.3	8.1	0.3	91.6	8.4	
	祖父	2	－	50.0	50.0	－	50.0	50.0	
	祖母	20	－	65.0	30.0	5.0	65.0	35.0	
	その他	6	16.7	－	83.3	－	16.7	83.3	

23. 子育てに関して悩んでいること

あなたは子育てに関して、悩んでいることや気になることがありますか。（あてはまるもの3つまでチェック）（Q28）

子育てに関して悩んでいることは「子どもの進学や受験又は就職のこと」が58.5%で最も多い。次いで「子育てで出費がかさむこと」が39.0%、「子どもの友だちづきあい（いじめなどを含む）に関すること」が19.1%、「子どもに基本的な習慣（あいさつ、規則正しい食生活、整理整頓など）が身についていないこと」が15.7%などとなっている。「特にない」は14.1%である。

図表5-10 子育てに関して悩んでいること [全体]



世帯収入別でみると、世帯収入が低い世帯ほど「特にない」の割合は低く、300 万円未満では「子どもの進学や受験又は就職のこと」(62.4%)、「子育てで出費がかさむこと」(56.1%) などほとんどの項目で、その他の世帯に比べて割合が高い。

世帯類型別でみると、ひとり親等では「子育てで出費がかさむこと」「子どもの進学や受験又は就職のこと」「子どもに基本的な習慣（あいさつ、規則正しい食生活、整理整頓など）が身についていないこと」「子どもが勉強しないこと」「不登校などの課題に関すること」などの割合がふたり親より高い。

子育ての楽しさ別でみると、子育てがつらいと感じる人ほど「子どもに基本的な習慣（あいさつ、規則正しい食生活、整理整頓など）が身についていないこと」「不登校などの課題に関すること」「子どもの身体や発育、病気のこと」「子どもが勉強しないこと」「配偶者があまり協力してくれないこと」などの割合が高くなっている。

回答者別でみると、「子どもの進学や受験又は就職のこと」は母親、父親とも5割を超えており、その他母親は「子育てで出費がかさむこと」が父親よりも5.2ポイント高く、父親は「子どもに基本的な習慣（あいさつ、規則正しい食生活、整理整頓など）が身についていないこと」が母親よりも5.4ポイント高い。

図表5-11 子育てに関して悩んでいること〔全体、世帯収入別、世帯類型別、子育ての楽しさ別、回答者別〕

(%)																
		標本数	子どもの進学や受験又は就職のこと	子育てで出費がかさむこと	子どもの友だちづきあい（いじめなどを含む）に関すること	子どもに基本的な習慣（あいさつ、規則正しい食生活、整理整頓など）が身についていないこと	子どもが勉強しないこと	子どもの身体や発育、病気のこと	子どもが反抗期でなかなか言うことをきかないこと	配偶者があまり協力してくれないこと	子どもの生活態度が消極的であること	不登校などの課題に関すること	子どものしつけや教育についての相談相手がいないこと	子どもの非行や問題行動に関すること	特にない	その他
全 体		9,985 100.0	5,843 58.5	3,890 39.0	1,906 19.1	1,566 15.7	1,104 11.1	1,097 11.0	914 9.2	822 8.2	456 4.6	365 3.7	346 3.5	70 0.7	68 0.7	1,412 14.1
収入 世帯 別	300万円未満	1,396	62.4	56.1	21.7	16.1	10.5	14.0	10.6	8.9	2.4	2.9	5.9	1.4	0.9	7.9
	300万～600万円未満	3,317	59.3	45.9	19.2	15.1	11.8	11.7	9.1	7.9	5.7	3.4	3.4	0.6	0.7	11.7
	600万円以上	5,272	57.0	30.1	18.3	15.9	10.7	9.7	8.8	8.3	4.4	4.0	2.8	0.6	0.6	17.3
類型 世帯 別	ひとり親等	1,206	63.6	53.2	19.0	16.4	11.6	15.2	9.7	10.4	1.5	3.2	6.6	1.8	1.1	8.5
	ふたり親	8,779	57.8	37.0	19.1	15.6	11.0	10.4	9.1	7.9	5.0	3.7	3.0	0.5	0.6	14.9
楽し 育て る 別	大変楽しい	2,199	52.1	35.3	15.7	10.2	3.0	5.9	6.7	2.5	3.0	2.0	1.2	0.3	0.2	25.2
	楽しいことが多い	6,719	60.2	40.1	19.9	15.8	11.3	11.3	9.0	7.6	4.5	3.9	2.9	0.6	0.5	12.7
	つらいと感じることが多い	1,011	61.8	39.9	21.0	25.7	26.7	19.4	14.7	24.0	7.7	5.5	11.0	2.1	2.5	0.6
	とてもつらい	56	51.8	35.7	14.3	35.7	14.3	19.6	25.0	17.9	16.1	8.9	28.6	3.6	8.9	－
回答 者 別	母親（継母を含む）	9,374	58.7	39.3	18.9	15.4	11.3	10.9	9.1	8.4	4.7	3.6	3.5	0.7	0.6	13.9
	父親（継父を含む）	583	56.3	34.1	22.0	20.8	8.2	12.0	9.1	5.3	1.9	4.5	2.9	0.7	1.4	16.6
	祖父	2	－	－	50.0	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	50.0
	祖母	20	45.0	40.0	10.0	10.0	－	25.0	15.0	5.0	－	10.0	5.0	－	－	30.0
	その他	6	83.3	16.7	－	33.3	－	－	33.3	16.7	－	－	16.7	－	33.3	16.7

第6章 新型コロナウイルス感染症の影響

24. 保護者の状況

(1) 世帯収入の変化

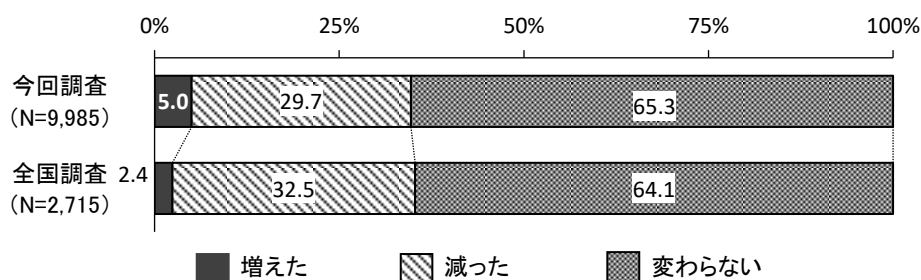
あなたのご家庭の現在の生活は、新型コロナウイルス感染症の拡大により学校が休校する前（2020年2月以前）から比べて、どのように変わりましたか。

a. 世帯全体の収入の変化（Q32）

新型コロナウイルス感染症の拡大により家庭生活がどのように変わったかたずねた。「世帯全体の収入の変化」については「増えた」が5.0%、「減った」が29.7%、「変わらない」が65.3%となっている。

全国調査と比べると、今回調査の方が「減った」はやや低く、「増えた」はやや高い。

図表6-1 世帯収入の変化〔全体〕（全国調査比較）



※全国調査では「不明・無回答」1.0%あり

世帯収入別でみると、「減った」は300万円未満で52.7%、300万～600万円未満で37.3%、600万円以上で18.8%であり、世帯収入が低い世帯ほど割合は高くなっている。

世帯類型別でみると、「減った」はひとり親等では38.2%、ふたり親では28.5%となっている。

図表6-2 世帯収入の変化〔全体、世帯収入別、世帯類型別〕

(%)					
		標 本 数	増 え た	減 っ た	変 わ ら な い
全 体		9,985 100.0	498 5.0	2,963 29.7	6,524 65.3
収入 世帯 別	300万円未満	1,396	3.4	52.7	43.9
	300万～600万円未満	3,317	4.2	37.3	58.5
	600万円以上	5,272	5.9	18.8	75.3
類型 世帯 別	ひとり親等	1,206	5.6	38.2	56.1
	ふたり親	8,779	4.9	28.5	66.6

(2) 生活に必要な支出の変化

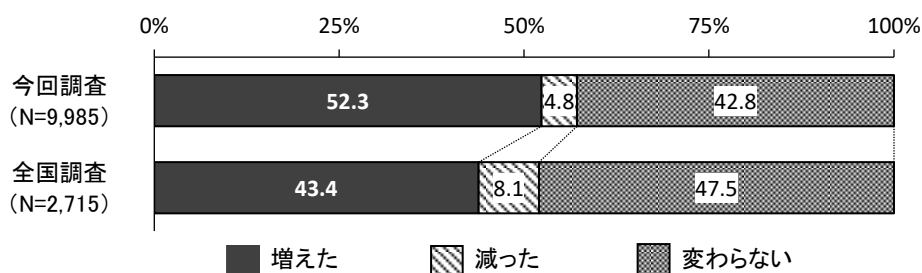
あなたのご家庭の現在の生活は、新型コロナウイルス感染症の拡大により学校が休校する前（2020年2月以前）から比べて、どのように変わりましたか。

b. 生活に必要な支出の変化（Q32）

新型コロナウイルス感染症の拡大による家庭生活の変化として、「生活に必要な支出の変化」については「増えた」が52.3%、「減った」が4.8%、「変わらない」が42.8%となっている。

全国調査と比べると、今回調査の方が「増えた」が8.9ポイント高い。

図表6-3 生活に必要な支出の変化〔全体〕（全国調査比較）



※全国調査では「不明・無回答」1.0%あり

世帯収入別でみると、「増えた」は300万円未満で69.2%、300万～600万円未満で59.2%、600万円以上で43.5%であり、世帯収入が低い世帯ほど割合は高くなっている。

世帯類型別でみると、「増えた」はひとり親等では63.1%、ふたり親では50.8%となっている。

図表6-4 生活に必要な支出の変化〔全体、世帯収入別、世帯類型別〕

						(%)
		標 本 数	増 え た	減 つ た	変 わ ら な い	
全 体		9,985 100.0	5,224 52.3	484 4.8	4,277 42.8	
収 入 別 世 帯	300万円未満	1,396	69.2	3.7	27.1	
	300万～600万円未満	3,317	59.2	4.0	36.8	
	600万円以上	5,272	43.5	5.7	50.8	
別 類 型 世 帯	ひとり親等	1,206	63.1	4.1	32.8	
	ふたり親	8,779	50.8	5.0	44.2	

(3) お金が足りなくて、必要な食料や衣服を買えないこと

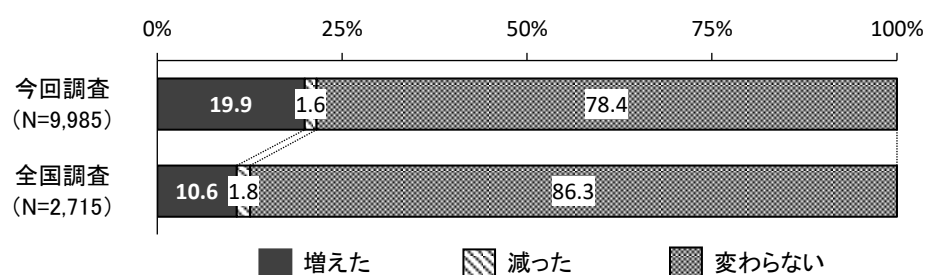
あなたのご家庭の現在の生活は、新型コロナウイルス感染症の拡大により学校が休校する前(2020年2月以前)から比べて、どのように変わりましたか。

c. お金が足りなくて、必要な食料や衣服を買えないこと (Q32)

新型コロナウイルス感染症の拡大による家庭生活の変化として、「お金が足りなくて、必要な食料や衣服を買えないこと」については「増えた」が19.9%、「減った」が1.6%、「変わらない」が78.4%となっている。

全国調査と比べると、今回調査の方が「増えた」は9.3ポイント高い。

図表6-5 お金が足りなくて、必要な食料や衣服を買えないこと [全体] (全国調査比較)



※全国調査では「不明・無回答」1.3%あり

世帯収入別でみると、「増えた」は300万円未満で49.5%、300万～600万円未満で26.0%、600万円以上で8.3%であり、世帯収入が低い世帯ほど割合は高くなっている。

世帯類型別でみると、「増えた」はひとり親等では40.5%、ふたり親では17.1%となっている。

図表6-6 お金が足りなくて、必要な食料や衣服を買えないこと [全体、世帯収入別、世帯類型別]

		(%)			
		標本数	増えた	減った	変わらない
全 体		9,985 100.0	1,992 19.9	161 1.6	7,832 78.4
収 入 世 帯 別	300万円未満	1,396	49.5	3.1	47.4
	300万～600万円未満	3,317	26.0	1.7	72.3
	600万円以上	5,272	8.3	1.2	90.5
別 類 世 帯 型 別	ひとり親等	1,206	40.5	2.1	57.4
	ふたり親	8,779	17.1	1.5	81.3

(4) 子どもと話をすること

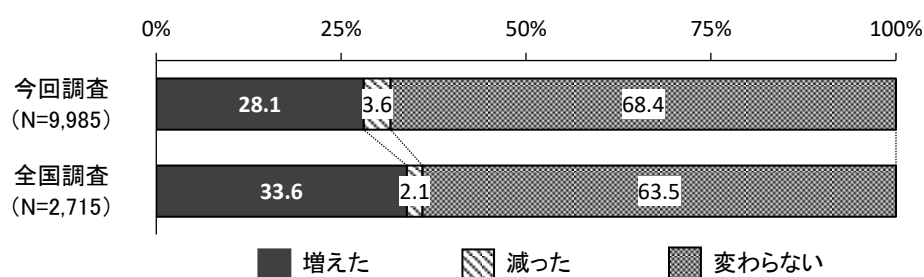
あなたのご家庭の現在の生活は、新型コロナウイルス感染症の拡大により学校が休校する前(2020年2月以前)から比べて、どのように変わりましたか。

d. お子さんと話をすること(Q32)

新型コロナウイルス感染症の拡大による家庭生活の変化として、「お子さんと話をすること」については「増えた」が28.1%、「減った」が3.6%、「変わらない」が68.4%となっている。

全国調査と比べると、今回調査の方が「増えた」は5.5ポイント低く、「変わらない」は4.9ポイント高い。

図表6-7 子どもと話をすること〔全体〕(全国調査比較)



世帯収入別でみると、「増えた」は300万円未満で30.7%、300万～600万円未満で27.4%、600万円以上で27.8%となっている。他方、「減った」はそれぞれ8.0%、4.1%、2.1%である。

世帯類型別でみると、「増えた」はひとり親等では28.9%、ふたり親では28.0%と同程度になっており、「減った」はそれぞれ8.1%、2.9%となっている。

図表6-8 子どもと話をすること〔全体、世帯収入別、世帯類型別〕

					(%)	
		標 本 数	増 え た	減 っ た	変 わ ら な い	
全 体		9,985 100.0	2,804 28.1	356 3.6	6,825 68.4	
収 入 別	300万円未満	1,396	30.7	8.0	61.3	
	300万～600万円未満	3,317	27.4	4.1	68.5	
	600万円以上	5,272	27.8	2.1	70.1	
別 類 型 別	ひとり親等	1,206	28.9	8.1	63.0	
	ふたり親	8,779	28.0	2.9	69.1	

(5) 家庭内で言い争ったり、もめごとが起こること

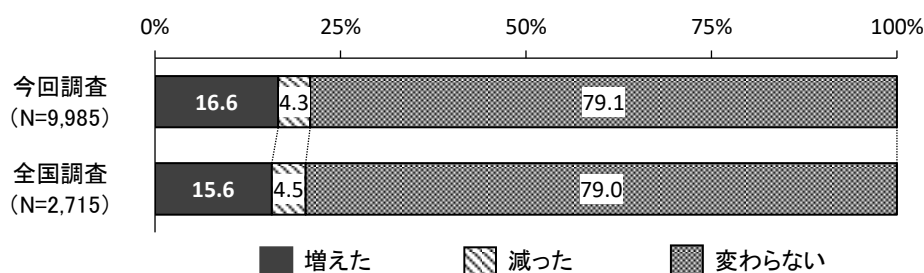
あなたのご家庭の現在の生活は、新型コロナウイルス感染症の拡大により学校が休校する前（2020年2月以前）から比べて、どのように変わりましたか。

e. 家庭内で言い争ったり、もめごとが起こること（Q32）

新型コロナウイルス感染症の拡大による家庭生活の変化として、「家庭内で言い争ったり、もめごとが起こること」については「増えた」が16.6%、「減った」が4.3%、「変わらない」が79.1%となっている。

全国調査と比べてもあまり大きな差はみられない。

図表6-9 家庭内で言い争ったり、もめごとが起こること〔全体〕（全国調査比較）



世帯収入別でみると、「増えた」は300万円未満で23.5%、300万～600万円未満で18.5%、600万円以上で13.6%となっている。他方、「減った」はそれぞれ5.9%、3.5%、4.4%である。

世帯類型別でみると、「増えた」はひとり親等では20.6%、ふたり親では16.1%となっており、「減った」はそれぞれ6.1%、4.0%となっている。

図表6-10 家庭内で言い争ったり、もめごとが起こること〔全体、世帯収入別、世帯類型別〕

		(%)			
		標本数	増えた	減った	変わらない
全 体		9,985	1,659	427	7,899
		100.0	16.6	4.3	79.1
収 入 別	300万円未満	1,396	23.5	5.9	70.6
	300万～600万円未満	3,317	18.5	3.5	78.0
	600万円以上	5,272	13.6	4.4	82.1
別 類 型 別	ひとり親等	1,206	20.6	6.1	73.3
	ふたり親	8,779	16.1	4.0	79.9

(6) あなた自身がイライラや不安を感じたり、気分が沈むこと

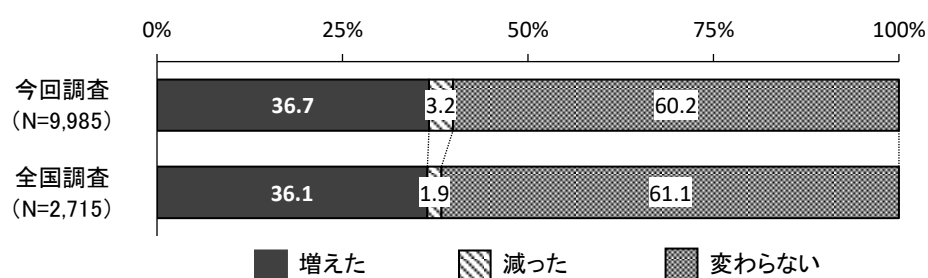
あなたのご家庭の現在の生活は、新型コロナウイルス感染症の拡大により学校が休校する前(2020年2月以前)から比べて、どのように変わりましたか。

f. あなた自身がイライラや不安を感じたり、気分が沈むこと(Q32)

新型コロナウイルス感染症の拡大による家庭生活の変化として、「あなた自身がイライラや不安を感じたり、気分が沈むこと」については「増えた」が36.7%、「減った」が3.2%、「変わらない」が60.2%となっている。

全国調査と比べてもあまり大きな差はみられない。

図表6-11 あなた自身がイライラや不安を感じたり、気分が沈むこと [全体] (全国調査比較)



※全国調査では「不明・無回答」0.9%あり

世帯収入別でみると、「増えた」は300万円未満で49.2%、300万～600万円未満で39.8%、600万円以上で31.4%と、世帯収入が低い世帯ほど割合が高い。

世帯類型別でみると、「増えた」はひとり親等では44.7%、ふたり親では35.6%となっている。

図表6-12 あなた自身がイライラや不安を感じたり、気分が沈むこと
[全体、世帯収入別、世帯類型別]

		標本数	増えた	減った	変わらない
			(%)	(%)	(%)
全 体		9,985 100.0	3,662 36.7	316 3.2	6,007 60.2
収 入 別	300万円未満	1,396	49.2	4.3	46.5
	300万～600万円未満	3,317	39.8	2.7	57.5
	600万円以上	5,272	31.4	3.2	65.4
世 帯 類 型 別	ひとり親等	1,206	44.7	4.6	50.7
	ふたり親	8,779	35.6	3.0	61.5

25. 子どもの状況

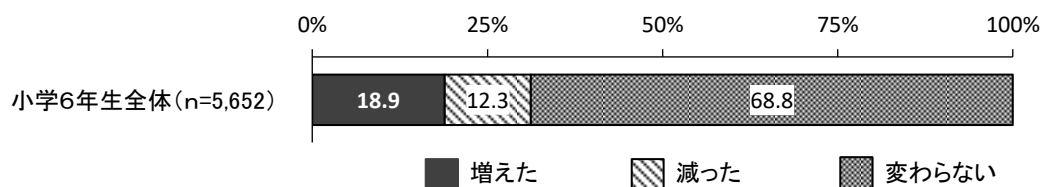
(1) 学校の授業以外で勉強する時間

お子さんの現在の生活は、新型コロナウイルス感染症の拡大により学校が休校になる前（2020年2月以前）と比べて、どのように変わったと思いますか。

a. 学校の授業以外で勉強する時間（Q33）

新型コロナウイルス感染症の拡大により、子どもの生活がどのように変わったかをたずねた。「学校の授業以外で勉強する時間」について、小学6年生の子どもでは「増えた」が18.9%、「減った」が12.3%、「変わらない」が68.8%となっている。

図表6-13 学校の授業以外で勉強する時間【小学6年生全体】



世帯収入別でみると、「減った」は300万円未満で19.9%、300万～600万円未満で13.3%、600万円以上で9.7%となっている。他方、「増えた」はそれぞれ14.2%、14.8%、22.6%である。

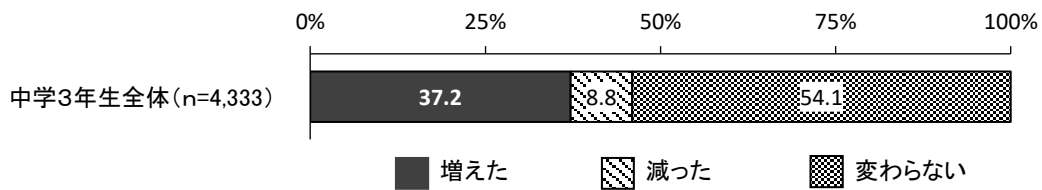
世帯類型別でみると、「減った」はひとり親等では18.3%、ふたり親では11.6%となっており、「増えた」はそれぞれ15.4%、19.3%となっている。

図表6-14 学校の授業以外で勉強する時間【小学6年生全体、世帯収入別、世帯類型別】

		(%)			
		標本数	増えた	減った	変わらない
小学6年生全体		5,652 100.0	1,069 18.9	694 12.3	3,889 68.8
世帯収入別	300万円未満	762	14.2	19.9	65.9
	300万～600万円未満	1,868	14.8	13.3	71.8
	600万円以上	3,022	22.6	9.7	67.7
世帯類型別	ひとり親等	589	15.4	18.3	66.2
	ふたり親	5,063	19.3	11.6	69.1

「学校の授業以外で勉強する時間」について、中学３年生の子どもでは「増えた」が 37.2%、「減った」が 8.8%、「変わらない」が 54.1%となっている。

図表 6－15 学校の授業以外で勉強する時間 [中学３年生全体]



世帯収入別でみると、「減った」は 300 万円未満で 14.7%、300 万～600 万円未満で 8.4%、600 万円以上で 7.4%となっている。他方、「増えた」はそれぞれ 31.1%、35.3%、40.0%である。

世帯類型別でみると、「減った」はひとり親等では 15.6%、ふたり親では 7.6%となっており、「増えた」はそれぞれ 29.0%、38.5%となっている。

図表 6－16 学校の授業以外で勉強する時間 [中学３年生全体、世帯収入別、世帯類型別]

		(%)			
		標本数	増えた	減った	変わらない
中学3年生全体		4,333	1,610	380	2,343
		100.0	37.2	8.8	54.1
収入世帯別	300万円未満	634	31.1	14.7	54.3
	300万～600万円未満	1,449	35.3	8.4	56.3
	600万円以上	2,250	40.0	7.4	52.6
世帯類型別	ひとり親等	617	29.0	15.6	55.4
	ふたり親	3,716	38.5	7.6	53.8

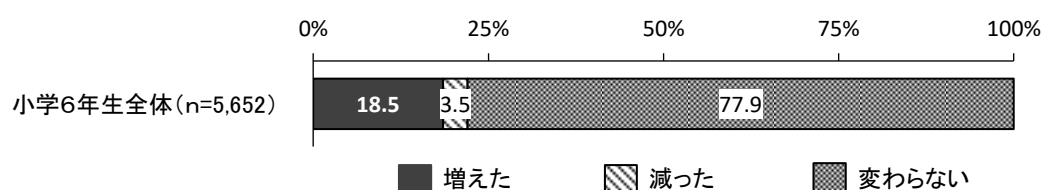
（２）学校の授業でわからないと感じること

お子さんの現在の生活は、新型コロナウイルス感染症の拡大により学校が休校になる前（2020年2月以前）と比べて、どのように変わったと思いますか。

ｂ．学校の授業がわからないと感じること（Q33）

新型コロナウイルス感染症の拡大による子どもの生活の変化として、「学校の授業でわからないと感じること」について、小学6年生の子どもでは「増えた」が18.5%、「減った」が3.5%、「変わらない」が77.9%となっている。

図表6-17 学校の授業でわからないと感じること〔小学6年生全体〕



世帯収入別でみると、「増えた」は300万円未満で31.5%、300万～600万円未満で21.8%、600万円以上で13.3%となっている。

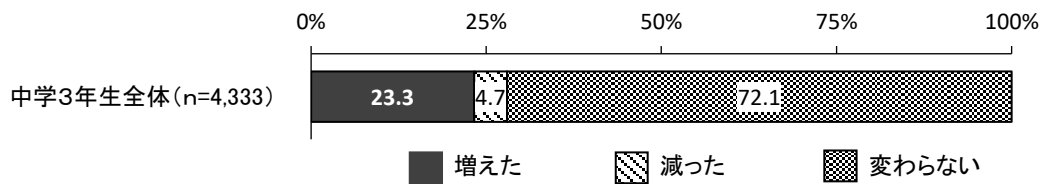
世帯類型別でみると、「増えた」はひとり親等では28.7%、ふたり親では17.4%となっている。

図表6-18 学校の授業でわからないと感じること
〔小学6年生全体、世帯収入別、世帯類型別〕

		標本数	増えた	減った	変わらない
			(%)	(%)	(%)
小学6年生全体		5,652 100.0	1,048 18.5	199 3.5	4,405 77.9
収入別	300万円未満	762	31.5	3.7	64.8
	300万～600万円未満	1,868	21.8	2.3	75.9
	600万円以上	3,022	13.3	4.2	82.5
類型別	ひとり親等	589	28.7	4.2	67.1
	ふたり親	5,063	17.4	3.4	79.2

「学校の授業でわからないと感じること」について、中学3年生の子どもでは「増えた」が23.3%、「減った」が4.7%、「変わらない」が72.1%となっている。

図表6-19 学校の授業でわからないと感じること [中学3年生全体]



世帯収入別でみると、「増えた」は300万円未満で36.3%、300万～600万円未満で25.9%、600万円以上で17.9%となっている。

世帯類型別でみると、「増えた」はひとり親等では35.8%、ふたり親では21.2%となっている。

図表6-20 学校の授業でわからないと感じること
[中学3年生全体、世帯収入別、世帯類型別]

		(%)			
		標本数	増えた	減った	変わらない
中学3年生全体		4,333 100.0	1,008 23.3	203 4.7	3,122 72.1
収入世帯別	300万円未満	634	36.3	3.2	60.6
	300万～600万円未満	1,449	25.9	4.8	69.3
	600万円以上	2,250	17.9	5.1	77.1
世帯類型別	ひとり親等	617	35.8	3.9	60.3
	ふたり親	3,716	21.2	4.8	74.0

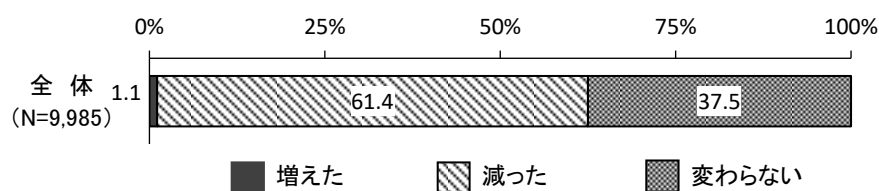
(3) 地域のクラブ活動や学校の部活動で活動する回数

お子さんの現在の生活は、新型コロナウイルス感染症の拡大により学校が休校になる前（2020年2月以前）と比べて、どのように変わったと思いますか。

c. 地域のクラブ活動や学校の部活動で活動する回数（Q33）

新型コロナウイルス感染症の拡大による子どもの生活の変化として、「地域のクラブ活動や学校の部活動で活動する回数」については「増えた」が1.1%、「減った」が61.4%、「変わらない」が37.5%となっている。

図表6-21 地域のクラブ活動や学校の部活動で活動する回数〔全体〕



世帯収入別でみると、「減った」は300万円未満で55.4%、300万～600万円未満で60.3%、600万円以上で63.7%となっている。他方、「変わらない」はそれぞれ43.4%、38.8%、35.2%である。

世帯類型別でみると、「減った」はひとり親等では55.0%、ふたり親では62.3%となっており、「変わらない」はそれぞれ43.9%、36.7%である。

子どもの学年別でみると、「減った」は小学6年生で59.0%、中学3年生で64.5%、「変わらない」はそれぞれ39.7%、34.7%である。

図表6-22 地域のクラブ活動や学校の部活動で活動する回数
〔全体、世帯収入別、世帯類型別、子どもの学年別〕

		(%)			
		標本数	増えた	減った	変わらない
全 体		9,985 100.0	108 1.1	6,129 61.4	3,748 37.5
収 入 世 帯 別	300万円未満	1,396	1.1	55.4	43.4
	300万～600万円未満	3,317	1.0	60.3	38.8
	600万円以上	5,272	1.1	63.7	35.2
別 類 世 帯	ひとり親等	1,206	1.1	55.0	43.9
	ふたり親	8,779	1.1	62.3	36.7
別 学 子 年 の ど	小学6年生	5,652	1.3	59.0	39.7
	中学3年生	4,333	0.8	64.5	34.7

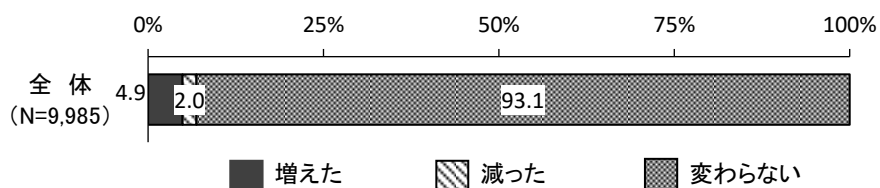
(4) 食事を抜く回数

お子さんの現在の生活は、新型コロナウイルス感染症の拡大により学校が休校になる前(2020年2月以前)と比べて、どのように変わったと思いますか。

d. 食事を抜く回数(Q33)

新型コロナウイルス感染症の拡大による子どもの生活の変化として、「食事を抜く回数」については「増えた」が4.9%、「減った」が2.0%、「変わらない」が93.1%となっている。

図表6-23 食事を抜く回数 [全体]



世帯収入別でみると、「増えた」は300万円未満で11.5%、300万～600万円未満で5.0%、600万円以上で3.1%となっている。他方、「減った」はそれぞれ3.7%、1.9%、1.6%である。

世帯類型別でみると、「増えた」はひとり親等では11.8%、ふたり親では4.0%となっており、「減った」はそれぞれ3.2%、1.8%である。

子どもの学年別でみると、「増えた」は小学6年生で4.3%、中学3年生で5.7%である。

図表6-24 食事を抜く回数 [全体、世帯収入別、世帯類型別、子どもの学年別]

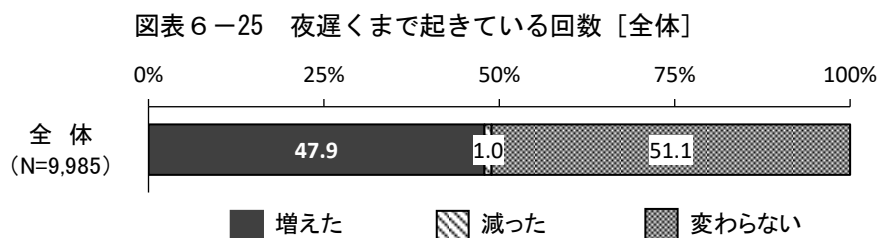
		(%)			
		標本数	増えた	減った	変わらない
全 体		9,985	491	200	9,294
		100.0	4.9	2.0	93.1
収 入 世 帯 別	300万円未満	1,396	11.5	3.7	84.7
	300万～600万円未満	3,317	5.0	1.9	93.1
	600万円以上	5,272	3.1	1.6	95.3
別 類 世 帯 型	ひとり親等	1,206	11.8	3.2	85.1
	ふたり親	8,779	4.0	1.8	94.2
別 学 も 子 年 の ど	小学6年生	5,652	4.3	1.8	93.9
	中学3年生	4,333	5.7	2.2	92.0

(5) 夜遅くまで起きている回数

お子さんの現在の生活は、新型コロナウイルス感染症の拡大により学校が休校になる前（2020年2月以前）と比べて、どのように変わったと思いますか。

e. 夜遅くまで起きている回数（Q33）

新型コロナウイルス感染症の拡大による子どもの生活の変化として、「夜遅くまで起きている回数」については「増えた」が47.9%、「減った」が1.0%、「変わらない」が51.1%となっている。



世帯収入別でみると、「増えた」は300万円未満で59.0%、300万～600万円未満で49.6%、600万円以上で43.9%となっている。

世帯類型別でみると、「増えた」はひとり親等では58.6%、ふたり親では46.4%となっている。

子どもの学年別でみると、「増えた」は小学6年生で45.1%、中学3年生で51.6%である。

図表6-26 夜遅くまで起きている回数 [全体、世帯収入別、世帯類型別、子どもの学年別]

		(%)			
		標本数	増えた	減った	変わらない
全 体		9,985	4,784	98	5,103
		100.0	47.9	1.0	51.1
収入世帯別	300万円未満	1,396	59.0	1.4	39.5
	300万～600万円未満	3,317	49.6	0.8	49.7
	600万円以上	5,272	43.9	1.0	55.1
類型世帯別	ひとり親等	1,206	58.6	1.2	40.2
	ふたり親	8,779	46.4	1.0	52.6
学年の子ども別	小学6年生	5,652	45.1	1.0	53.9
	中学3年生	4,333	51.6	0.9	47.5

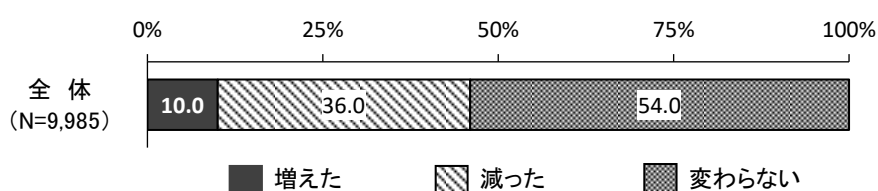
（６）親以外の大人や友達と話をすること

お子さんの現在の生活は、新型コロナウイルス感染症の拡大により学校が休校になる前（2020年2月以前）と比べて、どのように変わったと思いますか。

f. 親以外の大人や友達と話をすること（Q33）

新型コロナウイルス感染症の拡大による子どもの生活の変化として、「親以外の大人や友達と話をすること」については「増えた」が10.0%、「減った」が36.0%、「変わらない」が54.0%となっている。

図表 6-27 親以外の大人や友達と話をすること〔全体〕



世帯収入別でみると、「増えた」は300万円未満で15.0%、300万～600万円未満で10.1%、600万円以上で8.7%となっている。他方「減った」はそれぞれ33.6%、35.6%、36.8%である。

世帯類型別でみると、「増えた」はひとり親等では14.9%、ふたり親では9.4%となっており、「減った」はそれぞれ33.3%、36.3%である。

子どもの学年別でみると、「増えた」は小学6年生で9.0%、中学3年生で11.4%、「減った」はそれぞれ39.5%、31.4%である。

図表 6-28 親以外の大人や友達と話をすること〔全体、世帯収入別、世帯類型別、子どもの学年別〕

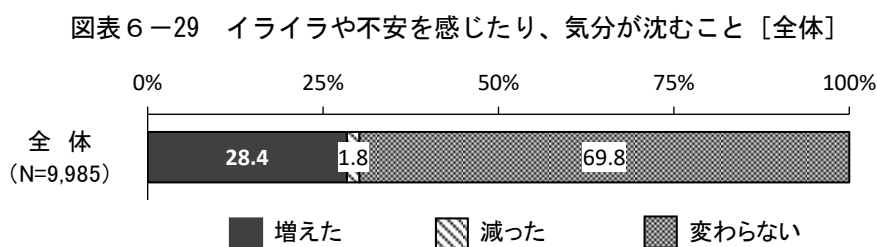
		(%)			
		標本数	増えた	減った	変わらない
全 体		9,985	1,003	3,591	5,391
		100.0	10.0	36.0	54.0
収 入 世 帯 別	300万円未満	1,396	15.0	33.6	51.4
	300万～600万円未満	3,317	10.1	35.6	54.4
	600万円以上	5,272	8.7	36.8	54.5
別 類 世 帯 型 別	ひとり親等	1,206	14.9	33.3	51.7
	ふたり親	8,779	9.4	36.3	54.3
別 学 も 子 年 の ど	小学6年生	5,652	9.0	39.5	51.5
	中学3年生	4,333	11.4	31.4	57.2

(7) イライラや不安を感じたり、気分が沈むこと

お子さんの現在の生活は、新型コロナウイルス感染症の拡大により学校が休校になる前（2020年2月以前）と比べて、どのように変わったと思いますか。

g. イライラや不安を感じたり、気分が沈むこと（Q33）

新型コロナウイルス感染症の拡大による子どもの生活の変化として、「イライラや不安を感じたり、気分が沈むこと」については「増えた」が28.4%、「減った」が1.8%、「変わらない」が69.8%となっている。



世帯収入別でみると、「増えた」は300万円未満で37.8%、300万～600万円未満で29.9%、600万円以上で25.1%となっている。

世帯類型別でみると、「増えた」はひとり親等では35.7%、ふたり親では27.4%となっている。

子どもの学年別でみると、「増えた」は小学6年生で28.2%、中学3年生で28.7%と同程度となっている。

図表 6-30 イライラや不安を感じたり、気分が沈むこと
[全体、世帯収入別、世帯類型別、子どもの学年別]

		標本数	増えた	減った	変わらない
全 体		9,985 100.0	2,840 28.4	178 1.8	6,967 69.8
収入世帯別	300万円未満	1,396	37.8	2.7	59.5
	300万～600万円未満	3,317	29.9	1.9	68.3
	600万円以上	5,272	25.1	1.5	73.4
類型世帯別	ひとり親等	1,206	35.7	2.3	61.9
	ふたり親	8,779	27.4	1.7	70.9
子ども学年別	小学6年生	5,652	28.2	1.6	70.2
	中学3年生	4,333	28.7	2.1	69.2

III 講 評

Ⅲ 講 評

福岡大学 人文学部
准教授 添田祥史

今回の調査結果から、子どもと家庭に関わる施策や支援を進めるにあたって、下記の視点を踏まえる必要があります。図表や数字の向こうには、福岡市のどこかで暮らしている実際の家庭があります。子どもの未来があります。そのことを想像しながら、調査結果を読み解いてください。

1 調査結果について

(1) 子どもの生活と学習をどう支えるか

子どもたちの基本的な生活習慣は、悪化していました。平日の就寝時間は遅くなっています。中学3年生では、夜9～10時の就寝が前回調査から約16ポイント減り、夜11～12時が約6ポイント、夜12時以降が約11ポイント増えています（図表2-3）。新型コロナウイルス感染症の拡大により学校が休校する前と比べて、子どもが夜遅くまで起きている回数が増えたという回答は、約48%に及びます（図表6-25）。

子どもたちの半数は平日に運動しない状況で過ごしています（図表3-5）。「運動しない」（「まったく」、「めったにない」という回答）が、前回調査から約18ポイントも増えています。300万円未満の世帯だと6割を超えます。新型コロナウイルス感染症の流行拡大に伴い、部活動やスポーツ少年団の活動などが休止あるいは縮小したことによると考えられます。長引くコロナ禍によって、イライラや不安を感じたり、気分が沈む子どもの様子が伺えますが（図表6-29）、運動をする機会が奪われたことも、その一因かもしれません。

不登校の経験がある子どもは、約11%で、前回調査より約4ポイント増えています。不登校自体は、どの子どもにも起こり得ますが、家計や家庭環境により出現率が違う点には注意が必要です。300万円未満やひとり親世帯では、不登校経験が2割を超えます（図表3-12）。

コロナ禍以前と比べて、300万円未満世帯やひとり親世帯の約12%が、食事を抜く回数が増えたという回答しています（図表6-24）。平日の朝食を「ほぼ毎日」食べていない子どもが約1割います（図表2-5）。月に数回以下しか朝食をとらない子どもは、小学生で約3%、中学生で5%います。所得の低い世帯ほど、その傾向がみられます（図表2-7、図表2-9）。平日の夕食を子どもだけや一人ですべている世帯が約9%あります。中学3年生の約8%が一人で夕食をとっています（図表2-11）。

子どもが放課後に留守番をする時間が増えており、留守番をする時間が「ない」という回答は、前回調査から約11ポイント減っています（図表3-9）。習い事を「とくにしていない」という世帯は約16%ですが、300万円未満では約35%、ひとり親世帯では約30%に及ぶ一方で、600万円以上だと約8%と大きな差が生じています（図表3-8）。

一方、子ども食堂や無料の学習支援の利用はいずれも3%程度であり（図表3-19、図表3-21）、居場所活動の利用は約6%ですが（図表3-17）、無料の学習支援事業については、所得の低い世帯の約6割が利用したいと考えています（図表3-22）。

（２）家庭と子育てをどう支えるか

子どもへの支援と並行して、保護者への配慮や支援も必要です。とくに、低所得やひとり親世帯に対しては、丁寧かつ手厚い対応が求められます。子育てが「つらい」という回答は、300 万円未満やひとり親世帯では、約 18%に及びます（図表 5-9）。子どもや家庭のことで「相談できる相手がほしい」という回答は、ひとり親世帯では、約 18%と前回の倍になっていました（図表 5-3）。相談相手としてほしい相手は、「友人」が約 49%で最も多く、次いで「配偶者・パートナー」が 35%でした。相談相手としての学校関係者へのニーズも伺え（「学校の先生」約 27%、「スクールカウンセラー」約 24%、「スクールソーシャルワーカー」約 17%）、民間の相談機関が約 21%でした。学校関係者の中で、「学校の先生」は、どの階層にも共通してニーズがありました（図表 5-7）。学校行事への保護者の参加が、子育てに関する相談相手を獲得する機会となり得ますが、運動会や授業参観日に保護者が参加していない世帯もあります（図表 4-4）。

新型コロナウイルス感染症の拡大により、収入が減ったという回答は、収入が低い世帯ほど多く、300 万円未満では半数に及びます（図表 6-2）。コロナ禍以前と比べて、お金が足りなくて必要な食料や衣服が買えないことが増えたという回答は、全国調査の約倍でした（図表 6-5）。コロナ禍によって、子どもと話す時間が増えたという反面（図表 6-7）、家庭内で言い争ったり、もめごとが増えたりしています（図表 6-9）。保護者自身がイライラしたり不安を感じたり、気分が沈むことが増えたという回答が全体で約 37%、300 万円未満だと約 49%に及びます（図表 6-12）。

（３）コロナ禍で進行する格差にどう向きあうか

高校卒業後の進路については、世帯所得によって大きく差が生じています。子どもの進学段階についての保護者の意識には、明らかな階層差がみられます（図表 3-14）。世帯収入の低い世帯ほど「家庭の経済的な状況から考えて」進学段階を決定しています（図表 3-16）。

こうした保護者の意識に加えて、家庭環境も子どもの進学に影響します。習い事や学習塾に通っているかどうかは、家計で大きな差が生じています（図表 3-8）。子どもの年齢にあった本、スポーツ用品、自宅で勉強できる場所がない世帯もあります（図表 4-8）。「家庭で子どもと行うこと」は、所得が高い世帯ほど、たくさんの経験を子どもと共有しています（図表 4-2）。

新型コロナウイルス感染症の拡大が、こうした格差を水面下で一層進めています。一斉休校前よりも学校外での勉強時間が減った子どもは、所得の低い世帯でした（図表 6-14、図表 6-16）。高校入試の準備が本格化する中学 3 年生の秋の時点で、中学 2 年生の 2 月時点よりも家庭学習の時間が減ったという回答が、300 万円未満の世帯では約 15%に及びます（図表 6-16）。学校の授業がわからないと感じることが増えたという回答は、小学 6 年生で約 19%、中学 3 年生で約 23%ですが、300 万円未満の世帯だと小学 6 年生で約 32%、中学 3 年生で約 36%になります（図表 6-18、図表 6-20）。

２ これからを考えるために

第一に、子どもの貧困対策のプラットフォームとしての学校の役割や体制づくり（「子供の貧困対策に関する大綱」、2019 年 11 月 29 日閣議決定）のあり方について、検討をしていく必要があります。コロナ禍は、改めて学校の社会的役割と使命を浮き彫りにしました。本市は、全中学校にスクールソーシャルワーカーを配置しており、学校を窓口とした福祉機関や社会資源とのつながりがしやすい環境ができています。加えて、小学校区ごとに公立公民館が配置され、地域コミュニティと学校の距離が

近く、企業活動や市民活動が盛んである本市の「強み」を活かした取り組みの充実が求められます。

第二に、子どもの居場所や学習支援事業の「ユニバーサル化」が求められます。本当に必要な子どもが安心して利用できるようにするためには、子どもの貧困対策としてのイメージを払拭し、みんなに開かれた場であるという認識に変えていく必要があります。そのためには、所得の低い世帯やひとり親世帯に対する積極的な利用の働きかけと並行して、子ども同士の意識もさることながら、保護者の意識をまず変えていくことが求められます。

第三に、格差縮小のための「下に手厚い」支援のいっそうの拡充が必要です。近年、非認知能力という言葉が注目されています。社会を生き抜く上で必要なのは、「意欲」、「自制心」、「あきらめない心」や「自尊感情」、「社交性」といった姿勢や能力が身についているかどうかが重要です。これらの力は、学校教育に順応し、学業面で良い成績をおさめる上での土台ともなります。居場所や学習支援は、非認知能力の再獲得支援でもあるという意識が重要です。

第四に、孤立した子育てを防ぐために、子どもや家庭のことを相談できる相手と出会う場が必要です。コロナ禍で他者との接触が制限されることは、もともと子育てに関する相互扶助のネットワークが乏しい家庭ほど影響を受けていることが予想され、また、ネットワークを増やそうとしても、そうした機会が減少していることが予想されます。

第五に、この点とも関連して、保護者の学校行事への「不参加」についての分析が必要です。ひとり親世帯の2割が学校行事に「不参加」の傾向にありました（図表4-4）。不参加を個人の意識の問題に留めずに、どうすれば参加できるのか、参加したくなるのかについて考える必要があります。学校行事へ「ひとり親世帯」の不参加は、仕事の調整がつきづらいのかもしれませんが、行事の内容や雰囲気に参加を躊躇させるものになっているのかもしれません。

第六に、市民レベルによる取り組みのいっそうの充実が求められます。行政的支援はもちろんですが、市民にできることもたくさんあるはずです。他都市にあって、本市にないものはなにか。行政も他都市の先進事例に学ぶ必要がありますが、市民においてもそうです。ここでいう市民には、福岡市民一人ひとりはもちろん、NPO・ボランティア、地縁組織、民間企業、大学を含みます。

最後に、今回の調査は、コロナ禍ということもあり、質問紙ではなく、オンラインで実施されています。デジタルデバイド（インターネットやコンピューターを使える人と使えない人との間に生じる格差）という言葉があります。そのことを意識しておく必要があるでしょう。

IV 参考資料（調査項目）

福岡市子どもの生活状況等に関する調査

Q 1. お子さんの学年を教えてください。

※この調査で「お子さん」とは、調査対象となる小学6年生又は中学3年生のお子さんのことをいいます。以下、同じ。

1. 小学6年生（特別支援学校に在籍する小学部第6学年含む）
2. 中学3年生（特別支援学校に在籍する中学部第3学年含む）

Q 2. お子さんの性別を教えてください。

1. 男
2. 女
3. その他・答えたくない

Q 3. お子さんと同じく、生計を同一にしているご家族の人数（お子さんを含む。）を教えてください。
ただし、単身赴任中の方は含めないでください。

2人 3人 4人 5人 6人 7人 8人 9人 10人以上

Q 4. Q 3. で回答した「ご家族」には、お子さんから見てどの関係の方が含まれますか。
（あてはまるものすべてにチェック）

1. 母親
2. 父親
3. 祖父
4. 祖母
5. 兄弟姉妹
6. その他

Q 5. お子さんのご両親のことについて教えてください。（あてはまるもの1つに○）

1. 既婚・事実婚
2. 離婚
3. 死別
4. 別居中
5. 未婚
6. いない・わからない

Q 6. お子さんとあなたとの関係は、次のどれにあたりますか。お子さんからみた続柄でお答えください。
（あてはまるもの1つに○）

1. 母親（継母を含む）
2. 父親（継父を含む）
3. 祖父
4. 祖母
5. その他

Q 7. 次のもののうち、経済的理由のためにあなたの世帯にないものはありますか。
(あてはまるものすべてにチェック)

1. 子どもの年齢にあった本
2. 子どものスポーツ用品
3. 子どもが自宅で勉強できる場所
4. あてはまるものはない

Q 8. 次の費用のうち、経済的理由のために支払いができなかったものはありますか。
(あてはまるものすべてにチェック)

1. 学校や園の遠足や修学旅行代
2. 学校や園の給食費
3. 塾・習い事の月謝
4. スポーツクラブ（野球、サッカーなど）の月謝
5. 部活動の費用
6. 通勤通学の運賃
7. 子どもの文具や教材
8. 子どもに必要な衣服
9. 生理用品
10. 家族が必要とする食料
11. あてはまるものはない

Q 9. お子さんは平日に朝食を食べていますか。(あてはまるもの1つに○)

1. ほぼ毎日
2. 週に数回
3. 月に数回
4. めったに食べない
5. まったく食べない

Q10. お子さんは学校の授業以外で運動（部活動、スポーツクラブなど）をしていますか。
(あてはまるもの1つに○)

1. ほぼ毎日
2. 週に数回
3. 月に数回
4. めったにない
5. まったくない

Q11. お子さんは自宅で学習をしていますか。(あてはまるもの1つに○)

1. ほぼ毎日
2. 週に数回
3. 月に数回
4. めったにない
5. まったくない

Q12. お子さんは、通常、放課後に子どもだけ（きょうだい含む）で留守番をすることがありますか。ある場合は、選択肢 1～4 から留守番時間を選んでください。（あてはまるもの 1 つに○）

1. 1 時間以内
2. 1～3 時間
3. 2～3 時間以内
4. 3 時間以上
5. ない

Q13. お子さんは習い事をしていますか。（あてはまるものすべてにチェック）

1. 学習塾
2. 通信教育
3. 英会話
4. 習字
5. そろばん
6. 音楽・絵画
7. スポーツ・ダンス
8. 特にしていない
9. その他

Q14. お子さんは平日の夕食を主に誰と食べていますか。（あてはまるもの 1 つに○）

1. 家族全員
2. 父と子
3. 母と子
4. 子どものみ（兄弟姉妹と）
5. 子どものみ（一人）
6. その他

Q15. お子さんが平日に寝る時刻は何時ごろですか。（あてはまるもの 1 つに○）

1. 夜 9 時以前
2. 夜 9 時～10 時
3. 夜 10 時～11 時
4. 夜 11 時～12 時
5. 夜 12 時以降

Q16. お子さんの学校などでの勉強の成績はいかがですか。（あてはまるもの 1 つに○）

1. 成績良好
2. まあまあ良好
3. 普通
4. やや遅れている
5. かなり遅れている
6. わからない

Q17. お子さんは不登校の経験がありますか。(あてはまるもの1つに○)

1. 不登校経験なし
2. 過去に不登校の経験あり
3. 現在不登校中
4. わからない

Q18. お子さんは将来、現実的に見てどの段階まで進学すると思いますか。(あてはまるもの1つに○)

1. 中学まで
2. 高校まで
3. 短大・高専・専門学校まで
4. 大学またはそれ以上
5. まだわからない

Q19. Q18. で選択肢1～4と答えた理由は何ですか。

(あてはまるものすべてにチェック)

1. お子さんがそう希望しているから
2. 一般的な進路だと思うから
3. お子さんの学力から考えて
4. 家庭の経済的な状況から考えて
5. 特に理由はない
6. その他

Q20. お子さんに、次のような場所を利用させたことがありますか。

(a～dそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

a. (自分や友人の家以外で) 平日の夜や休日を過ごすことができる場所

1. 利用させたことがある
2. 利用させたことはないが、あれば利用したいと思う
3. 利用させたことはなく、今後も利用したいと思わない
4. 利用させたことはなく、今後利用したいかどうか分からない

b. (自分や友人の家以外で) ごはんを無料か安く食べることができる場所 (子ども食堂など)

1. 利用させたことがある
2. 利用させたことはないが、あれば利用したいと思う
3. 利用させたことはなく、今後も利用したいと思わない
4. 利用させたことはなく、今後利用したいかどうか分からない

c. 勉強を無料でみてくれる場所

1. 利用させたことがある
2. 利用させたことはないが、あれば利用したいと思う
3. 利用させたことはなく、今後も利用したいと思わない
4. 利用させたことはなく、今後利用したいかどうか分からない

d. (家や学校以外で) 何でも相談できる場所 (電話やネットの相談を含む)

1. 利用させたことがある
2. 利用させたことはないが、あれば利用したいと思う
3. 利用させたことはなく、今後も利用したいと思わない
4. 利用させたことはなく、今後利用したいかどうか分からない

Q21. Q20. で1つでも「利用させたことがある」と答えた方にお聞きします。

そこを利用したことで、お子さんに以下のような変化がありましたか。

(あてはまるものすべてにチェック)

1. 友達が増えた
2. 明るくなったと感じる
3. 栄養のある食事をとれることが増えた
4. 成績があがった
5. 勉強する時間が増えた
6. 特に変化はない
7. その他

Q22. あなたのご家庭では、お子さんと次のようなことをしたり、行ったりすることがありますか。

(あてはまるものすべてにチェック)

1. 子どもの勉強をみる
2. 学校の話聞く
3. 一緒に遊ぶ (体を動かす、ゲームをするなど)
4. 一緒に料理する
5. 家族旅行に行く
6. 野外活動 (キャンプ、山登り、海水浴など)
7. 図書館に行く
8. 美術館、博物館、科学館に行く
9. 動物園、植物園に行く
10. コンサート (オペラ・クラシック音楽など) に行く
11. 特にしていない

Q23. あなたは、次のようなこと (学校行事等への参加) をどの程度していますか。

(a、bそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

a. 授業参観や運動会などの学校行事

1. よく参加している
2. ときどき参加している
3. あまり参加していない
4. まったく参加していない

b. PTA活動や保護者会、放課後学習支援等のボランティアなど

1. よく参加している
2. ときどき参加している
3. あまり参加していない
4. まったく参加していない

Q24. あなたは、現在、子どもや家庭のことで、相談できる相手がありますか。(あてはまるもの1つに○)

1. 相談できる相手がいる
2. 相談できる相手がほしい
3. 必要ない

Q25. Q24. で答えた「相談できる相手」とはどんな相手ですか。

(あてはまるものすべてにチェック)

1. 配偶者・パートナー
2. 自分の親
3. 配偶者・パートナーの親
4. 友人
5. きょうだい・親せき
6. 近所の人
7. 学校の先生
8. スクールカウンセラー
9. スクールソーシャルワーカー
10. 民生委員・児童委員
11. 区役所の子ども相談窓口
12. 児童相談所(こども総合相談センター)
13. 病院の医師・看護師
14. 民間の相談機関
15. その他

Q26. Q24. で答えた「相談できる相手」にはどんな相手が欲しいですか。

(あてはまるものすべてにチェック)

1. 配偶者・パートナー
2. 自分の親
3. 配偶者・パートナーの親
4. 友人
5. きょうだい・親せき
6. 近所の人
7. 学校の先生
8. スクールカウンセラー
9. スクールソーシャルワーカー
10. 民生委員・児童委員
11. 区役所の子ども相談窓口
12. 児童相談所(こども総合相談センター)
13. 病院の医師・看護師
14. 民間の相談機関
15. その他

Q27. あなたは、お子さんの子育てが楽しいですか。(あてはまるもの1つに○)

1. 大変楽しい
2. 楽しいことが多い
3. つらいと感じることが多い
4. とてもつらい

Q28. あなたは子育てに関して、悩んでいることや気になることがありますか。(あてはまるもの3つまでチェック)

1. 子どもの進学や受験又は就職のこと
2. 子育てで出費がかさむこと
3. 子どもに基本的な習慣(あいさつ、規則正しい食生活、整理整頓など)が身につけていないこと
4. 子どもの友だちづきあい(いじめなどを含む)に関すること
5. 子どものしつけや教育に自信がもてないこと
6. 子どもの身体や発育、病気のこと
7. 子どもが勉強しないこと
8. 子どもが反抗期でなかなか言うことをきかないこと
9. 配偶者があまり協力してくれないこと
10. 子どもの生活態度が消極的であること
11. 子どものしつけや教育についての相談相手がいないこと
12. 不登校などの課題に関すること
13. 子どもの非行や問題行動に関すること
14. 特になし
15. その他

Q29. 2019年、2020年のあなたの家族全員の収入(税込)の合計を教えてください。

(a、bそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

※公的な手当・援助は除いた額をお答えください。

※収入には働いて得た給料だけではなく、株式配当や副収入を含みます。

a. 2019年

- | | | |
|----------------|-----------------|-------------------|
| 1. 50万円未満 | 7. 300～350万円未満 | 13. 700～800万円未満 |
| 2. 50～100万円未満 | 8. 350～400万円未満 | 14. 800～900万円未満 |
| 3. 100～150万円未満 | 9. 400～450万円未満 | 15. 900～1,000万円未満 |
| 4. 150～200万円未満 | 10. 450～500万円未満 | 16. 1,000万円以上 |
| 5. 200～250万円未満 | 11. 500～600万円未満 | |
| 6. 250～300万円未満 | 12. 600～700万円未満 | |

b. 2020年

- | | | |
|----------------|-----------------|-------------------|
| 1. 50万円未満 | 7. 300～350万円未満 | 13. 700～800万円未満 |
| 2. 50～100万円未満 | 8. 350～400万円未満 | 14. 800～900万円未満 |
| 3. 100～150万円未満 | 9. 400～450万円未満 | 15. 900～1,000万円未満 |
| 4. 150～200万円未満 | 10. 450～500万円未満 | 16. 1,000万円以上 |
| 5. 200～250万円未満 | 11. 500～600万円未満 | |
| 6. 250～300万円未満 | 12. 600～700万円未満 | |

Q30. お子さんのお父さんの現在の就業状況について教えてください。(あてはまるもの1つに○)

1. 正社員・正規職員
2. 契約社員・パート・非正規職員
3. 自営業・家業
4. 日雇
5. 内職
6. 求職中
7. 家事専業
8. お父さんはいない・わからない
9. その他

Q31. お子さんのお母さんの現在の就業状況について教えてください。(あてはまるもの1つに○)

1. 正社員・正規職員
2. 契約社員・パート・非正規職員
3. 自営業・家業
4. 日雇
5. 内職
6. 求職中
7. 家事専業
8. お母さんはいない・わからない
9. その他

Q32. あなたのご家庭の現在の生活は、新型コロナウイルス感染症の拡大により学校が休校する前(2020年2月以前)から比べて、どのように変わりましたか。

(a～fそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

a. 世帯全体の収入の変化

1. 増えた
2. 減った
3. 変わらない

b. 生活に必要な支出の変化

1. 増えた
2. 減った
3. 変わらない

c. お金が足りなくて、必要な食料や衣服を買えないこと

1. 増えた
2. 減った
3. 変わらない

d. お子さんと話をする事

1. 増えた
2. 減った
3. 変わらない

e. 家庭内で言い争ったり、もめごとが起こること

1. 増えた
2. 減った
3. 変わらない

f. あなた自身がイライラや不安を感じたり、気分が沈むこと

1. 増えた
2. 減った
3. 変わらない

Q33. お子さんの現在の生活は、新型コロナウイルス感染症の拡大により学校が休校になる前（2020 年 2 月以前）と比べて、どのように変わったと思いますか。

（a～gそれぞれについて、あてはまるもの1つに○）

a. 学校の授業以外で勉強する時間

1. 増えた 2. 減った 3. 変わらない

b. 学校の授業がわからないと感じること

1. 増えた 2. 減った 3. 変わらない

c. 地域のクラブ活動や学校の部活動で活動する回数

1. 増えた 2. 減った 3. 変わらない

d. 食事を抜く回数

1. 増えた 2. 減った 3. 変わらない

e. 夜遅くまで起きている回数

1. 増えた 2. 減った 3. 変わらない

f. 親以外の大人や友達と話をすること

1. 増えた 2. 減った 3. 変わらない

g. イライラや不安を感じたり、気分が沈むこと

1. 増えた 2. 減った 3. 変わらない

福岡市子どもの生活状況等に関する調査 報告書

令和4年3月

発行 福岡市こども未来局こども部こども健全育成課
〒810-8620

福岡市中央区天神1丁目8の1

電話 092 - 771 - 4188

F A X 092 - 733 - 5534